

令和4年度 全国学力・学習状況調査における 分析結果 報告書

授業改善のポイント

【調査目的】

- 1 市教育委員会は、児童・生徒の学力の定着状況及び教育課程や指導方法等にかかわる課題及び解決策を明確にし、教育行政施策に生かす。
- 2 各学校は、教育課程や指導方法等にかかわる自校の課題・解決策を明確にし、児童・生徒一人一人の学力向上を図る。
- 3 市教育委員会は、市民に対し、市の公立小・中学校における児童・生徒の学力の状況について、広く理解を求める。

【調査の対象学年】

小学校第6学年 児童 1357 名受験
中学校第3学年 生徒 1125 名受験

【調査日】

令和4年4月19日（火）

【調査の内容】

- 1 教科に関する調査：小学校（国語、算数、理科）、中学校（国語、数学、理科）
- 2 児童・生徒質問紙調査
- 3 学校質問紙調査



令和4年10月
立川市教育委員会



<目 次>

○ 立川市立小中学校における授業改善の取組…2

- ◇授業改善推進プランの作成・活用
- ◇学校の課題解決に資する校内研究
- ◇各教科の学習の過程を踏まえた指導
- ◇「主体的な学びの視点」「対話的な学びの視点」「深い学びの視点」による学習活動の改善
- ◇「立川スタンダード 20ver.3」①～⑩に関する自己評価の実施

1 小学校国語の調査結果…7

- (1) 調査結果の概要 (2) 学習指導要領の内容、観点別の結果等 (3) 設問ごとの正答率
- (4) 授業改善に向けて (5) 児童・生徒質問紙の回答と平均正答率との相関

2 小学校算数の調査結果…11

- (1) 調査結果の概要 (2) 学習指導要領の内容、観点別の結果等 (3) 設問ごとの正答率
- (4) 授業改善に向けて (5) 児童・生徒質問紙の回答と平均正答率との相関

3 小学校理科の調査結果…15

- (1) 調査結果の概要 (2) 学習指導要領の内容、観点別の結果等 (3) 設問ごとの正答率
- (4) 授業改善に向けて (5) 児童・生徒質問紙の回答と平均正答率との相関

4 中学校国語の調査結果…19

- (1) 調査結果の概要 (2) 学習指導要領の内容、観点別の結果等 (3) 設問ごとの正答率
- (4) 授業改善に向けて (5) 児童・生徒質問紙の回答と平均正答率との相関

5 中学校数学の調査結果…23

- (1) 調査結果の概要 (2) 学習指導要領の内容、観点別の結果等 (3) 設問ごとの正答率
- (4) 授業改善に向けて (5) 児童・生徒質問紙の回答と平均正答率との相関

6 中学校理科の調査結果…27

- (1) 調査結果の概要 (2) 学習指導要領の内容、観点別の結果等 (3) 設問ごとの正答率
- (4) 授業改善に向けて (5) 児童・生徒質問紙の回答と平均正答率との相関

7 学習に関する調査結果の概要〈授業改善のポイント〉…31

- (1) 児童・生徒質問紙の回答と各教科における授業改善のポイント
- (2) 児童・生徒質問紙の回答と平均生徒率との相関及び授業改善のポイント

8 生活習慣に関する調査結果の概要…36

9 学校質問紙調査の結果…37

- (1) カリキュラム・マネジメント
- (2) 義務教育9年間の学びや発達の連続性を踏まえた取組
- (3) 学校質問紙調査と児童・生徒質問紙調査との回答の比較

10 探究的な学習における教科等横断的な取組の充実に向けて…42

○ 立川市立小中学校における授業改善の取組

立川市立小中学校では全校において全国学力・学習状況調査の結果と、東京ベーシック・ドリルや定期考査等の結果とを関連させて児童・生徒の多面的・多角的な実態把握と組織的な分析を行い、「授業改善推進プラン」を作成して日々の授業改善に努めています。また、学校の課題解決に資する研究主題等を設定した校内研究の取組を通して、教科の指導力向上に向けた取組や教科等横断的な授業改善を行っています。

全国学力・学習状況調査の調査結果の活用に関する考え方

- ・本調査結果を十分活用して、児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析する。
- ・教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

上記取組を通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立し、学校における教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。

調査結果を踏まえた学校における取組の推進

- ・本調査結果の分析・検証の結果を踏まえ、指導計画等に適切に反映させる。
- ・教育指導等の改善に向けて計画的に取り組む。
- ・調査対象の学年や教科だけではなく、全学年、全教科等を対象として、学校の教育活動全体を見渡した幅広い観点から取り組むべき課題や、その改善に向けた取組について検討する。

本調査結果を踏まえ、教育指導等の改善に向けて取り組むことが考えられること

- ①「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
- ②個に応じた学習指導の改善・充実等
- ③ICT 機器を活用した学習活動の充実
- ④保護者や地域等と連携した取組の推進
- ⑤校内研修等の充実

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の取扱い及び調査結果の活用について（通知）4文科教第654号 令和4年7月28日より

立川市立小中学校における授業改善の具体

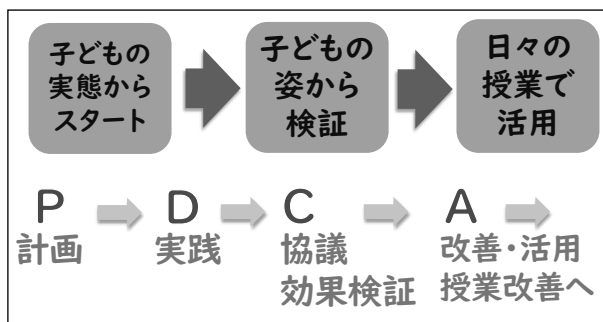
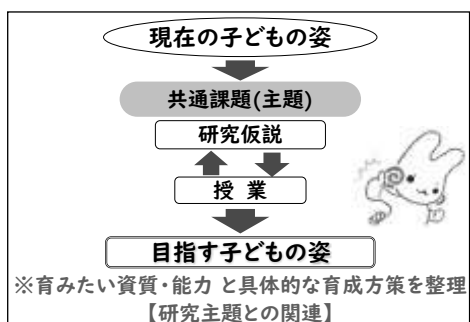
◇授業改善推進プランの作成・活用

<作成のねらい>

- (1) 児童・生徒の学力に係る実態や課題等を明らかにして、各校が学校の教育目標の実現及び教育課程届に明記した指導の重点を踏まえた授業改善のPDCAを構築する。
※教員が学力調査等の結果を分析する力の向上も図る。
- (2) 「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、各校がそれぞれの教科の学習で児童・生徒に身に付ける力と、そのために行う具体的な取組を保護者・地域の方に向けて端的に示す。

令和4年度 授業改善推進プランの作成について（通知）令和4年5月12日付より（立川市教育委員会教育部指導課）

◇学校の課題解決に資する校内研究



※各学校の教育目標や指導の重点、授業改善推進プランや校内研究の取組については、各校のホームページから御覧いただけます。



小学校一覧



中学校一覧

立川市教育委員会ホームページより

令和4年度 研究主任会資料より（一部抜粋）令和4年5月12日付より（立川市教育委員会教育部指導課）

◇各教科の学習の過程を踏まえた指導

各教科等の特質に応じて、下表等にあるような学習の過程を重視する。具体的な学習内容、単元（題材）の構成や学習の場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、実践できるようにする。

教師が授業を「単元（題材）で考えること」を重視する。

思考・判断・表現の過程には大きく三つがあると考えられている。
物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程
精査した情報を基に自分の考えを形成し表現したり、目的や状況等に応じて互いの考えを伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程
思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

参考：学習指導要領解説 総則編 第3章 第3節Ⅰ（Ⅰ）（小P.78～、中P.79～）より

<国語の学習過程>

「A話すこと・聞くこと」領域の構成

話すこと	学習過程	聞くこと	学習過程
	話題の設定		話題の設定
	情報の収集		情報の収集
	内容の検討		構造と内容の把握
	構成の検討		精査・解釈
	考えの形成		考えの形成
	表現		
	共有		共有

「B書くこと」領域の構成

書くこと	学習過程
	題材の設定
	情報の収集
	内容の検討
	構成の検討
	考えの形成
	記述
	推敲
	共有

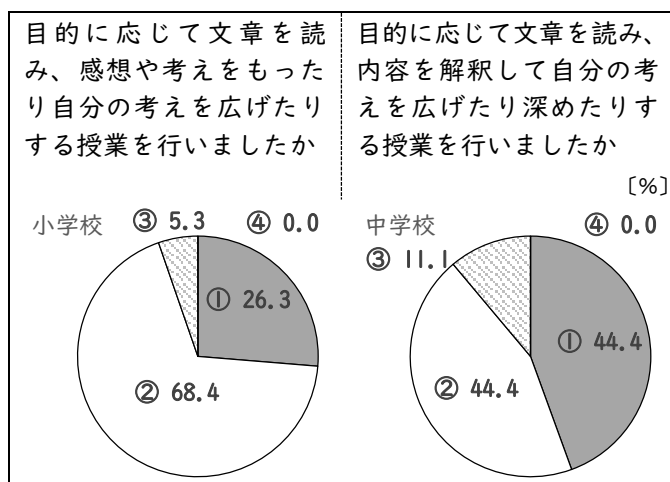
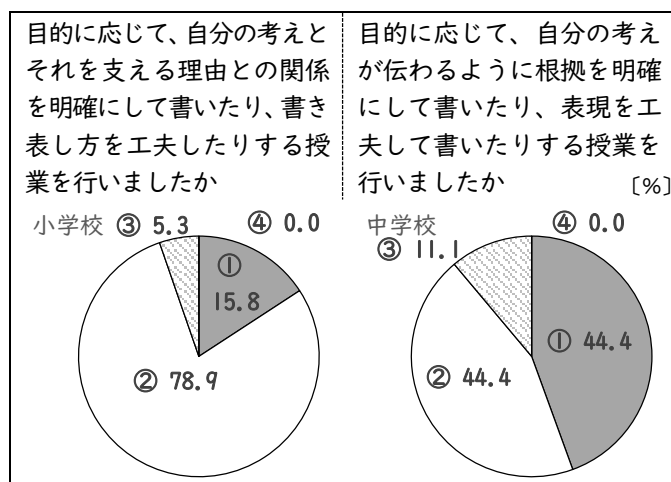
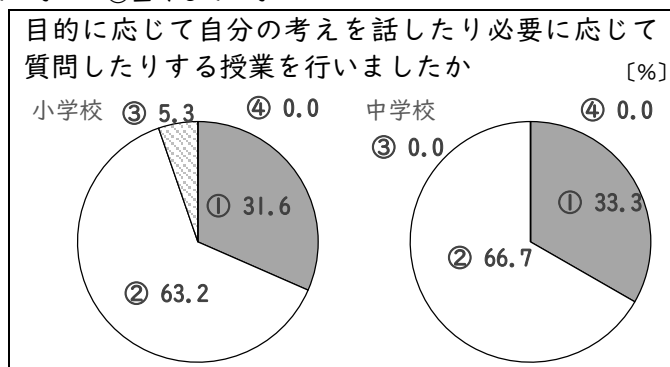
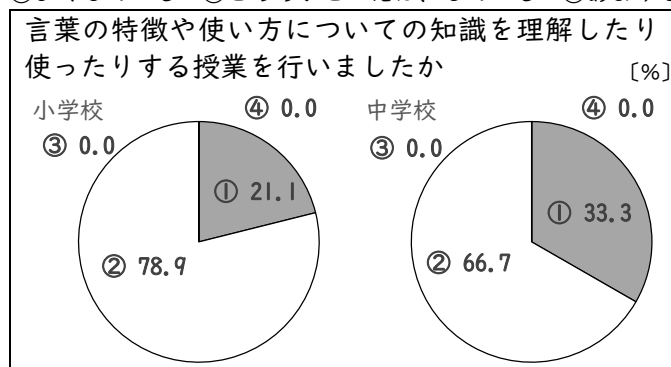
「C読むこと」領域の構成

読むこと	学習過程	
	(説明的な文章)	(文学的な文章)
	構造と内容の把握	構造と内容の把握
	精査・解釈	精査・解釈
	考えの形成	
	共有	

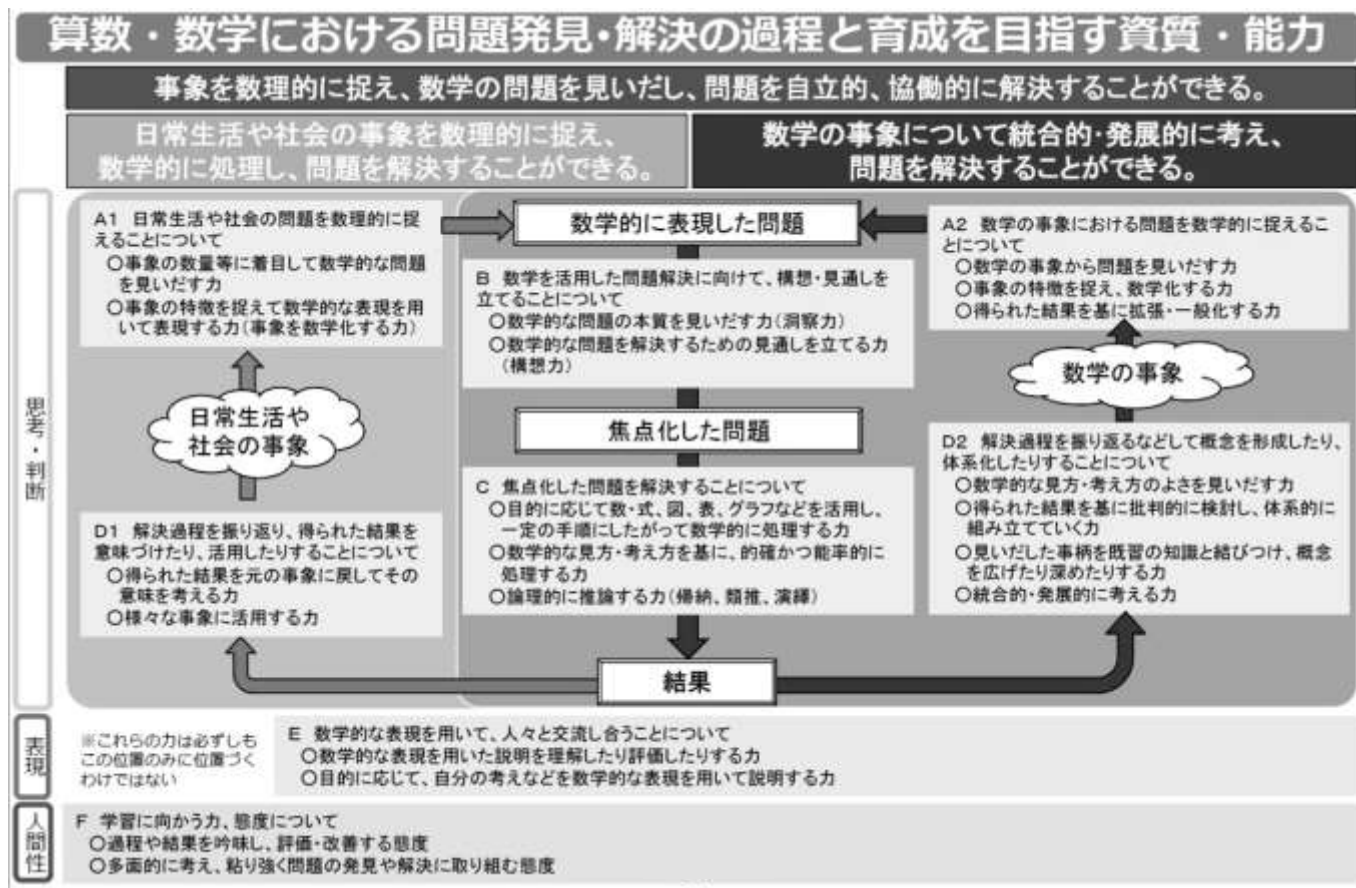
参考：小（中）学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編より

<国語の指導について（学校質問紙調査より）>

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④全くしていない



<算数・数学の学習過程>

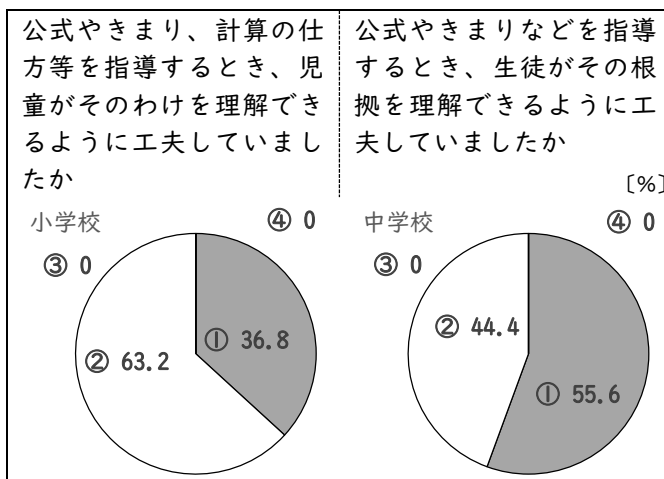
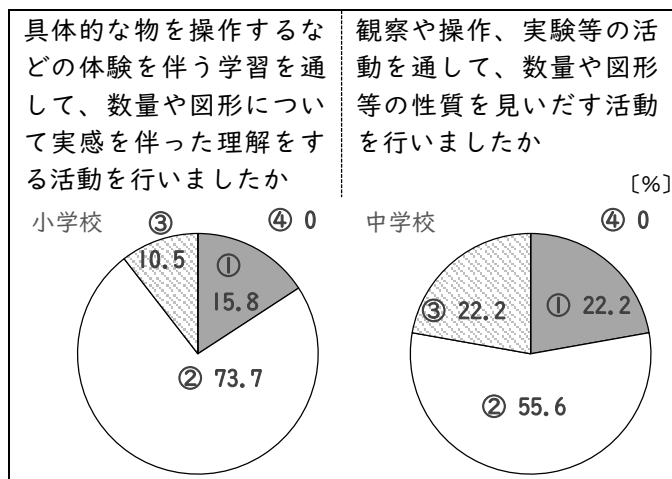
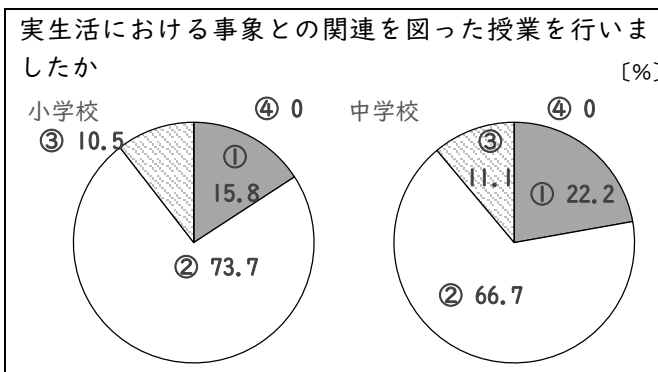


参考：幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）平成28年12月21日 中央教育審議会 別添より

<算数・数学の指導について（学校質問紙調査より）>



- ①よくしている
- ②どちらかといえば、している
- ③あまりしていない
- ④全くしていない



<理科の学習過程>

資質・能力を育むために重視すべき学習過程のイメージ（高等学校基礎科目の例^{*7}）

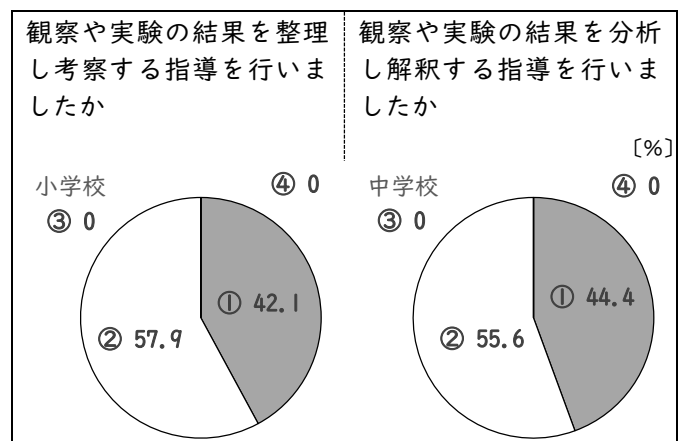
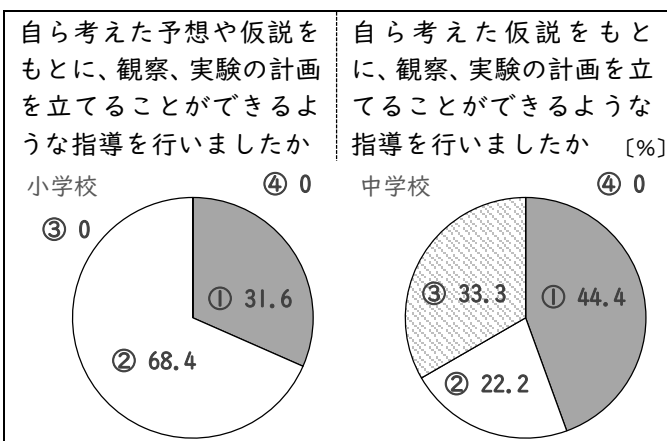
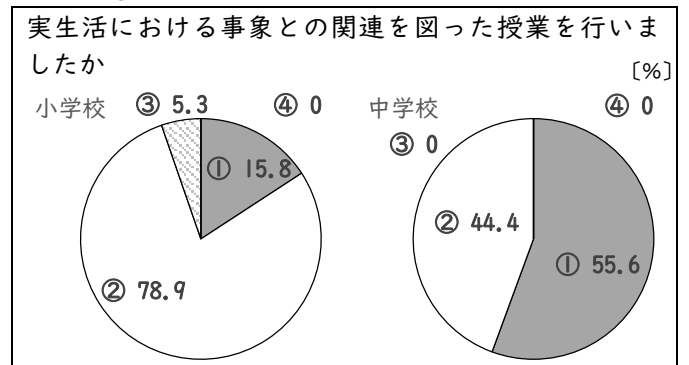
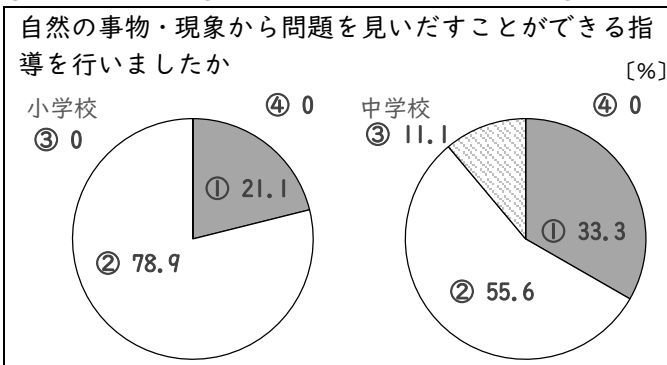


※小学校及び中学校においても、基本的には高等学校の例と同様の流れで学習過程を捉えることが必要である。

参考：中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編より

<理科の指導について（学校質問紙調査より）>

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④全くしていない



◇「主体的な学びの視点」「対話的な学びの視点」「深い学びの視点」による学習活動の改善

東京都や国の先行研究等を参考に、3つの視点による授業改善を検討し、実践する。

(例)「東京都多摩地区教育推進委員会第23計画(通算第44年次)報告書」平成30年2月を活用する。

	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
子どもの学びの姿	○ 興味・関心をもつ ○ 問題(課題)意識をもつ ○ 自己の課題をもつ ○ 予想を立てる ○ 解決の方法や手順を計画する ○ 既習内容を生かす ○ 新たな気づきを生み出す ○ 粘り強く取り組む ○ 解決の過程を振り返る	○ 改善点を見いだす ○ 新たな課題に気付く ○ 成果や課題を自覚する ○ 考えのよさに気付く ○ 考えの違いに気付く ○ よりよい考えを見いだす ○ 考えを統合する ○ 考えを吟味・検討する ○ 先哲の思いや願いを捉える	○ 考えを再構築する ○ 学びを自覚して、実践する ○ 知識を相互に関連付けて考える ○ 問題を発見し、解決方法を考える ○ 情報を精査して考えを形成する ○ 思いや考え(意図)を基に創造する ○ 他の単元(題材)や教科等につなげて考える ○ 生活や社会につなげて考える

上表「子どもの学びの姿」を参考に、教科や単元の学習で育成を目指す、より具体的な子どもの姿を設定し、授業改善につなげる。

- ・発達段階等を踏まえ、より具体的な目指す子どもの姿を設定
- ・その姿を実現するための教師の指導の手だてを検討
- ・授業の実践を振り返り、実際に現れた子どもの姿を基に、指導の手だてを再検証
- ・多面的・多角的に子どもの実態を把握し、目指す子どもの姿を修正
- ・改善策を講じた授業を実践

参考：学習指導要領解説 総則編 I 改訂の経緯及び基本方針(2)③イ (小P.3、中P.4)
 学習指導要領解説 総則編 第3節 教育課程の実施と学習評価(1) (小P.76～、中P.77)
 初等教育資料(文部科学省)、中等教育資料(文部科学省)2022年度各号の特集

◇「立川スタンダード20ver.3」①～⑳に関する自己評価の実施

①授業の「ねらい」「指導方法・内容等」を週ごとの指導計画に位置付けている。
②授業終了後、顕著な児童・生徒の発言、気になる児童・生徒のつぶやき等を「週ごとの指導計画」に位置付けている。
③授業規律や授業のルールが学年・学校で共通理解・実践している。
④発言するときのルールが徹底されている。(挙手、返事、起立)
⑤授業開始の前に、机の上に教科書・ノート等をそろえている。
⑥授業開始の時間を守っている。
⑦授業の挨拶をしている。
⑧既習事項及び生活体験に基づく導入をしている。
⑨「単元(題材)名」「学習のめあて」を明示している。
⑩「学習問題(課題)」及び「仮説(予想+理由)」を立てさせている。
⑪意図的な発問をしている。(「いつ・どこで・何が・誰が・どうした? 式は・答えは?」→「どのように?なぜ?何のために?」「もし~だとしたら?」「どうすれば?」)
⑫児童・生徒の表情をよく観察し、児童・生徒のつぶやきを取り上げるとともに、机間指導等で児童・生徒の学習状況を把握している。
⑬構造的な板書をしている。
⑭児童・生徒自らの考えを表現できる場を設定している。(ペア、グループ、全体)
⑮児童・生徒の学び合い(相互評価)の場を設定している。(比較・関連付け・統合)
⑯「学習のめあて」が達成できたか、児童・生徒の振り返り(自己評価)の場を設定している。
⑰児童・生徒を机間指導で評価し、到達度も把握している。
⑱授業の挨拶をしている。
⑲授業終了の時間を守っている。
⑳習得した知識や技能を、補充する課題・活用する課題(宿題)を出している。

(例)・自己評価に基づく実践に対して指導・助言を依頼する(管理職による授業観察、校内OJT等)。

- ・主任や主幹教諭等、または教員経験の長い教員が若手の教員を対象とした師範授業を行い、①～⑳の具体を参観させて授業改善の具体像をイメージできるようにする。※形式的にならないよう、子どもの学びの姿と対応させて捉えさせ、授業改善につなげる。
- ・①～⑳の自己評価を校内研究における教員の実態把握として活用し、研究を行う土台作りに活用する。

I 小学校国語の調査結果

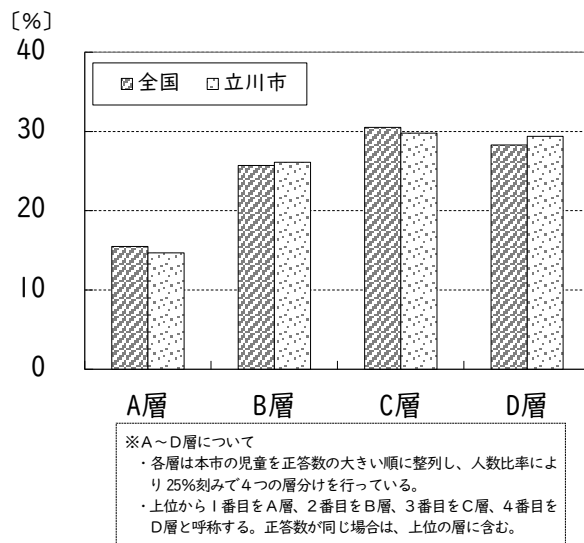
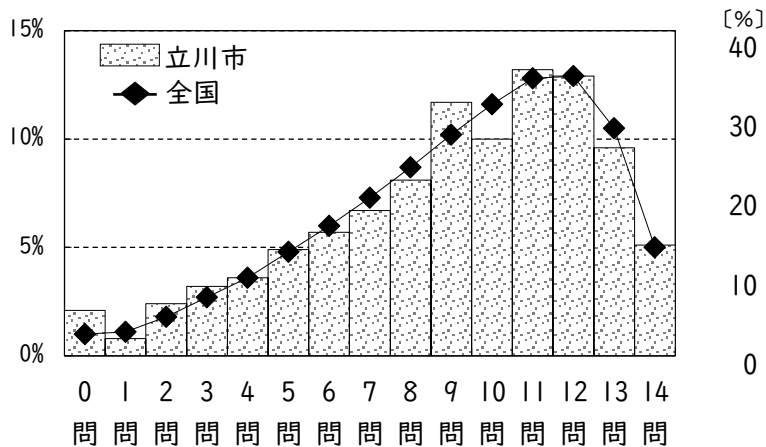
平均正答率 [%]

立川市 64.0

全国 65.6

(1) 調査結果の概要

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合)



◎概要について（令和3年度までと同様、全国と立川市との比較）

- ・正答数分布は、全国とほぼ同数である。
- ・四分位でみると全国と比較して、A層とC層の割合がやや低く、B層とD層の割合がやや高い。

(2) 学習指導要領の内容、観点別の結果等

分類			対象問題数 (問)	平均正答率 [%]	
				立川市	全国 (公立)
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	66.0	69.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0	-	-
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	69.9	77.9
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	2	66.5	66.2
		B 書くこと	2	46.7	48.5
		C 読むこと	4	68.9	66.6

分類		対象問題数 (問)	平均正答率 [%]	
			立川市	全国 (公立)
評価の観点	知識・技能	6	66.7	70.5
	思考・判断・表現	8	62.7	62.0
	主体的に学習に取り組む態度	0	-	-

問題形式	選択式	8	72.1	71.8
	短答式	3	58.3	63.6
	記述式	3	50.0	51.3

※表内、立川と全国のうちいずれか正答率が高い方に網かけ、右頁無回答率が低い方に網かけ、無回答率が10%を上回る設問は太枠囲み

(3) 設問ごとの正答率

[%]

設問番号 (問題形式)	設問の概要	出題の趣旨	立川市 (公立)		全国 (公立)	
			正答率	無解答率	正答率	無解答率
1ー (選択式)	【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いを理解する	85.6	2.4	85.5	0.9
1二 (選択式)	【話し合いの様子の一部】における谷原さんや中村さんの発言の理由として適切なものを選択する	言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える	69.8	2.5	68.8	1.0
1三 (選択式)	【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する	必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える	86.4	2.4	84.7	1.0
1四 (記述式)	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、 でどのように話すかを書く	互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる	46.6	3.1	47.7	3.0
2ー (1) (選択式)	「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを選択する	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える	69.9	2.3	68.4	1.0
2ー (2) (選択式)	「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する	登場人物の相互関係について、描写を基に捉える	75.0	3.4	70.6	1.6
2二 (記述式)	物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の A に入る内容を書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像する	69.7	14.5	68.3	12.2
2三 (選択式)	【山村さんの文章】の B に入る内容として適切なものを選択する	表現の効果を考える	60.8	6.7	59.2	3.2
3ー (選択式)	【文章2】の の部分を、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する	文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える	59.8	7.1	59.2	2.5
3二 (記述式)	【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける	33.7	21.3	37.7	14.5
3三 ア (短答式)	【文章2】の中の 部アを、漢字を使って書き直す (ろくが)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	60.0	15.4	65.2	8.1
3三 イ (短答式)	【文章2】の中の 部イを、漢字を使って書き直す (はんせい)		55.1	17.9	58.7	10.2
3三 ウ (短答式)	【文章2】の中の 部ウを、漢字を使って書き直す (したしむ)		59.8	24.6	67.1	14.7
3四 (選択式)	(一) から (二) に書き直した際、気を付けた内容として適切なものを選択する	漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く	69.9	14.4	77.9	5.9

(4) 授業改善に向けて

設問

1

【出題の趣旨】

互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

設問1四

- ・ 正答率 46.6% (全国 47.7%)
- ・ 無回答率 3.1%(全国 3.0%)

設問1四の分析等

- ◆互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに引き続き課題があると考えられる。

学習指導に当たって

話し合いを始める際に話し合いの目的や方向性を検討すること、話し合いの展開や内容を踏まえて互いの意見を整理すること、様々な視点から検討して自分の考えをまとめることなどできるようにする。

- ◆「A 話すこと・聞くこと」※のオに関する指導事項に課題があると考えられる。

※話し合いの進め方 考えの形成 共有 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。

授業アイデア例

「地域のためにできることについて話し合おう」

～互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い、考えをまとめる～



設問

2

【出題の趣旨】

人物像や物語の全体像を具体的に想像することができるかどうかをみる。

設問2二

- ・ 正答率 69.7% (全国 68.3%)
- ・ 無回答率 14.5%(全国 12.2%)

設問2二の分析等

- ◆人物像や物語の全体像を具体的に想像することに課題があると考えられる。

学習指導に当たって

着目した叙述を複数取り上げ、そこから考えられることをノートやワークシートにまとめたり、考えたことを交流したりすることで物語の全体像を明確に捉えられるようにする。

- ◆「C読むこと」のエ※に関する指導事項に課題があると考えられる。

※精査・解釈 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

授業アイデア例

「不思議な出来事が描かれている物語を読み、友達とすいせんし合おう」

～登場人物の相互関係や心情に着目し、人物像や物語の全体像を想像する～



設問

3

【出題の趣旨】

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。

設問3三ウ

- ・ 正答率 59.8% (全国 67.1%)
- ・ 無回答率 24.6%(全国 14.7%)

設問3三ウの分析等

- ◆漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。

学習指導に当たって

同じ漢字を繰り返し練習することにとどまらず、学習において感想や振り返りを書く場面や、日常生活において日記を書く場面などで漢字を使うことを意識できるようにする。同じ部分をもつ漢字や同じ読み方をする漢字に注意して書けるようにする。

- ◆「親しむ」の意味を捉えることができている児童もいたと考えられる。

授業アイデア例

「六年生としてがんばりたいことを書こう」

～文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける～

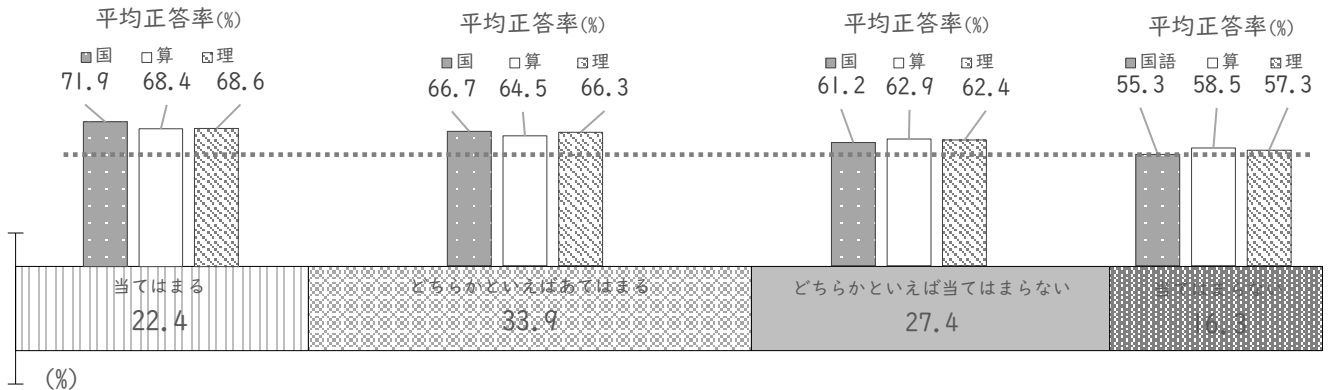


(5) 児童質問紙の回答と平均正答率との相関

国語の勉強は好きですか

	児童数の割合(%)	平均正答率(%)		
		国語 (14 問)	算数 (16 問)	理科 (17 問)
① 当てはまる	22.4	71.9	68.4	68.6
② どちらかといえば、当てはまる	33.9	66.7	64.5	66.3
③ どちらかといえば、当てはまらない	27.4	61.2	62.9	62.4
④ 当てはまらない	16.3	55.3	58.5	57.3

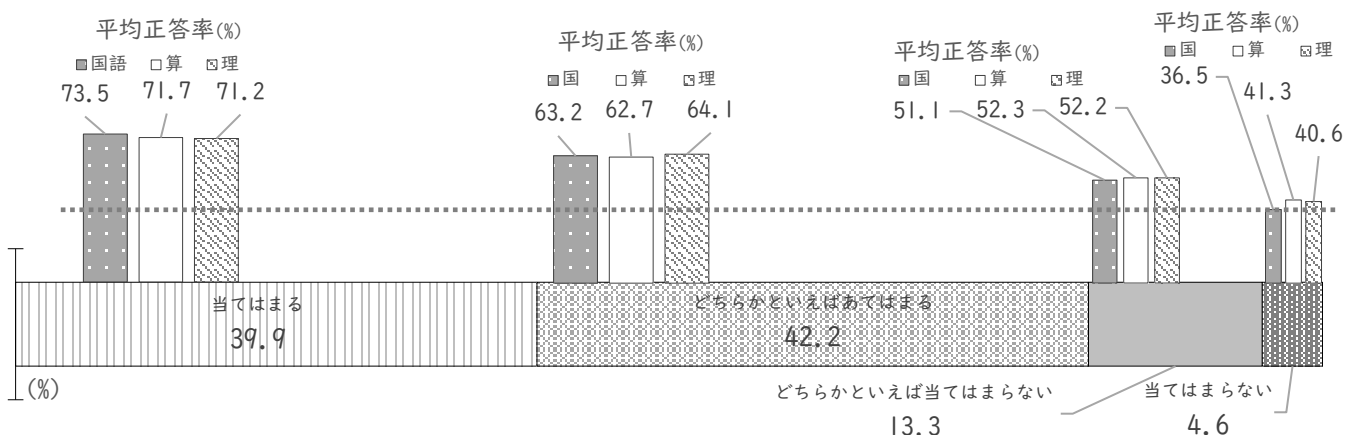
※立川市の平均正答率： 国語 (64.0)、算数 (64.0)、理科 (64.0)
 全国平均正答率： 国語 (65.6)、算数 (63.2)、理科 (63.3)



- ・「当てはまる」と回答した児童は、全ての教科で全国平均正答率よりも正答率が高い（国語+6.3ポイント、算数+5.2、+5.3）。「当てはまらない」と回答した児童は、全ての教科で全国平均正答率よりも正答率が低い（国語-10.3ポイント、算数-4.7ポイント、理科-6.0ポイント）
- ・市内19校46学級で考えると、1学級あたり約7名、約10名、約8名、約5名と考えられる。

国語の授業の内容はよく分かりますか

	児童数の割合(%)	平均正答率(%)		
		国語 (14 問)	算数 (16 問)	理科 (17 問)
① 当てはまる	39.9	73.5	71.7	71.2
② どちらかといえば、当てはまる	42.2	63.2	62.7	64.1
③ どちらかといえば、当てはまらない	13.3	51.1	52.3	52.2
④ 当てはまらない	4.6	36.5	41.3	40.6



- ・「当てはまる」と回答した児童は、全ての教科で全国平均正答率よりも正答率が高い（国語+7.9ポイント、算数+8.5、理科+7.9）。「当てはまらない」と回答した児童は、全ての教科で全国平均正答率よりも正答率が低い（国語-29.1ポイント、算数-21.9ポイント、理科-22.7ポイント）
- ・市内19校46学級で考えると、1学級あたり約11名、約12名、約4名、約2名と考えられる。

2 小学校算数の調査結果

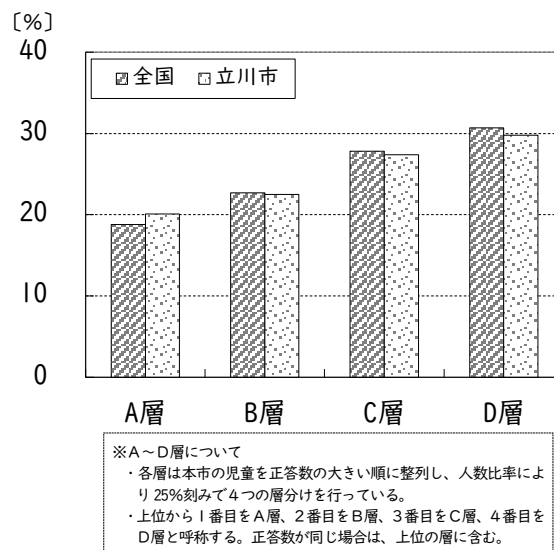
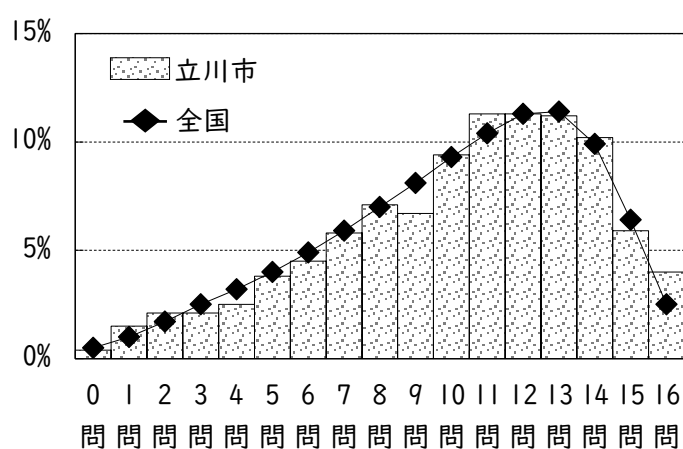
平均正答率 [%]

立川市 64.0

全国 63.2

(1) 調査結果の概要

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合)



◎概要について (令和3年度までと同様、全国と立川市との比較)

- ・正答数分布は、全国とほぼ同数である。
- ・四分位でみると全国と比較して、A層の割合がやや高い以外は、概ね全国と同じ割合である。

(2) 学習指導要領の内容、観点別の結果等

分類		対象問題数 (問)	平均正答率 [%]	
			立川市	全国 (公立)
学習指導要領 の領域	A 数と計算	6	68.6	69.8
	B 図形	4	65.6	64.0
	C 測定	0	-	-
	C 変化と関係	4	53.6	51.3
	D データの活用	3	70.3	68.7

分類		対象問題数 (問)	平均正答率 [%]	
			立川市	全国 (公立)
評価の観点	知識・技能	9	69.0	68.2
	思考・判断・表現	7	57.2	56.7
	主体的に学習に取り組む態度	0	-	-

問題形式	選択式	6	53.0	51.8
	短答式	6	77.5	76.5
	記述式	4	59.7	60.2

※表内、立川と全国のうちいずれか正答率が高い方に網かけ、右頁無回答率が低い方に網かけ、無回答率が10%を上回る設問は太枠囲み

(3) 設問ごとの正答率

[%]

設問番号 (問題形式)	設問の概要	出題の趣旨	立川市（公立）		全国（公立）	
			正答率	無解答率	正答率	無解答率
1(1) (短答式)	1050×4を計算する	被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる	92.5	0.2	92.4	0.3
1(2) (短答式)	14と21の最小公倍数を求める	二つの数の最小公倍数を求めることができる	71.3	2.9	72.2	3.0
1(3) (記述式)	カップケーキ7個分の値段を、1470÷3で求めることができるわけを書く	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる	68.8	5.4	76.0	5.2
1(4) (選択式)	85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ	示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる	35.0	1.2	34.8	0.9
2(1) (短答式)	果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す	百分率で表された割合を分数で表すことができる	74.7	4.5	71.1	3.9
2(2) (短答式)	果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの、果汁の量を書く	百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる	65.8	4.9	64.6	3.3
2(3) (選択式)	果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ	示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している	23.2	1.5	21.4	1.1
2(4) (記述式)	果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる	50.6	5.7	48.0	5.5
3(1) (短答式)	表のしりとり欄に入る数を求める式と答えを書く	表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる	77.3	2.1	75.3	2.1
3(2) (選択式)	分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように、遊びを選ぶ	分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる	68.1	2.4	63.9	1.6
3(3) (選択式)	1年生と6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ	目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる	65.6	3.2	66.8	2.2
3(4) (記述式)	1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く	加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる	66.6	10.2	67.7	8.6
4(1) (記述式)	示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す	正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる	53.0	6.0	48.8	3.8
4(2) (短答式)	長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く	図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している	83.2	6.0	83.2	4.7
4(3) (選択式)	辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ	図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している	67.7	7.2	66.5	4.6
4(4) (選択式)	示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ	示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる	58.6	8.8	57.6	5.1

(4) 授業改善に向けて

設問

1

【出題の趣旨】

示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できるかどうかをみる。

設問1(4)の分析等

- ◆目的に合った概数にして計算する方法を選ぶことができていないと考えられる。
- ◆85×21の答えが1470よりも必ず大きくなることを判断する数の処理の仕方で、50.1%の児童が「85を90、21を20とする」を選択していた。

設問1(4)

- ・正答率 35.0% (全国 34.8%)
- ・無回答率 1.2%(全国 0.9%)

学習指導に当たって

数の大きさを見積もる必要があるときは、目的に応じて数を大きくみたり小さくみたりして、概算できるようにする。

概数にする方法である切り上げ、切り捨て、四捨五入を用いて計算し、どの方法が適切であるかを判断できるようにする。左記の場合、85と21を概数にして見積もり、1470円より必ず高くなることを判断できるようにする。

授業アイデア例

「目的に合った値段の見積りの仕方を考えよう」
～予想から問題を焦点化し、筋道を立てて考える～



設問

2

【出題の趣旨】

数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかどうかをみる。

設問2(3)の分析等

- ◆飲み物の量が1/2になると、同様に果汁の割合も1/2になると誤って捉えていると考えられる。
- ◆「250mLは500mLの1/2である。」に続く文章として、66.9%の児童が「飲み物の量が1/2になると、果汁の割合も1/2になる。」を選択していた。

設問2(3)

- ・正答率 23.2% (全国 21.4%)
- ・無回答率 1.5%(全国 1.1%)

学習指導に当たって

日常の具体的な場面に対応させながら、飲み物の量に対する果汁の量の割合が、飲み物の濃さを表していることを理解できるようにする。

生活経験を基にした判断と、飲み物の量に対する果汁の量の割合を計算で求めた結果を関連付けて考えることができるようにする。

授業アイデア例

「飲み物の量が変わったときに果汁の割合がどうなるかを考えよう」
～数や式と日常の具体的な場面を関連付ける～



設問

4

【出題の趣旨】

正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる。

設問4(1)の分析等

- ◆正三角形をかくために直す命令を選ぶことに課題がある。
- ◆正三角形の一つの角の大きさと、正三角形をかくために回転する角の大きさを捉えられていないと考えられる。

設問4(1)

- ・正答率 53.0% (全国 48.8%)
- ・無回答率 6.0%(全国 3.8%)

学習指導に当たって

図形の意味や性質を基に、辺の長さや角の大きさに着目し、図形の構成の仕方について考察できるようにする。

プログラムについて見直し、改善する活動では、試行錯誤しながら気付いたことや、その理由を説明できるようにする。

授業アイデア例

「正多角形を作図しよう」
～図形の意味や性質を基に、発展的に考察する～

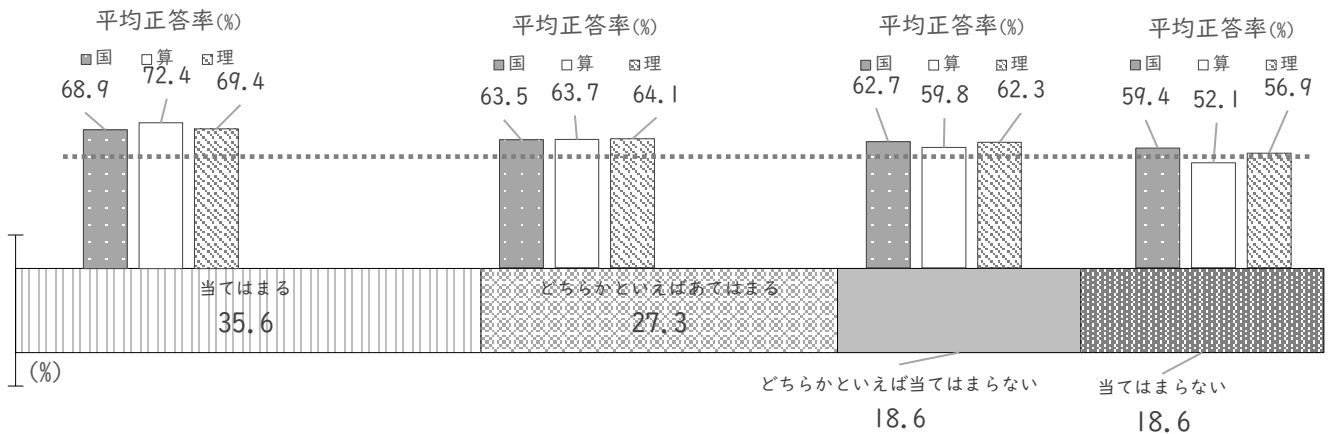


(5) 児童質問紙の回答と平均正答率との相関

算数の勉強は好きですか

	児童数の割合(%)	平均正答率(%)		
		国語 (14 問)	算数 (16 問)	理科 (17 問)
① 当てはまる	35.6	68.9	72.4	69.4
② どちらかといえば 当てはまる	27.3	63.5	63.7	64.1
③ どちらかといえば 当てはまらない	18.6	62.7	59.8	62.3
④ 当てはまらない	18.6	59.4	52.1	56.9

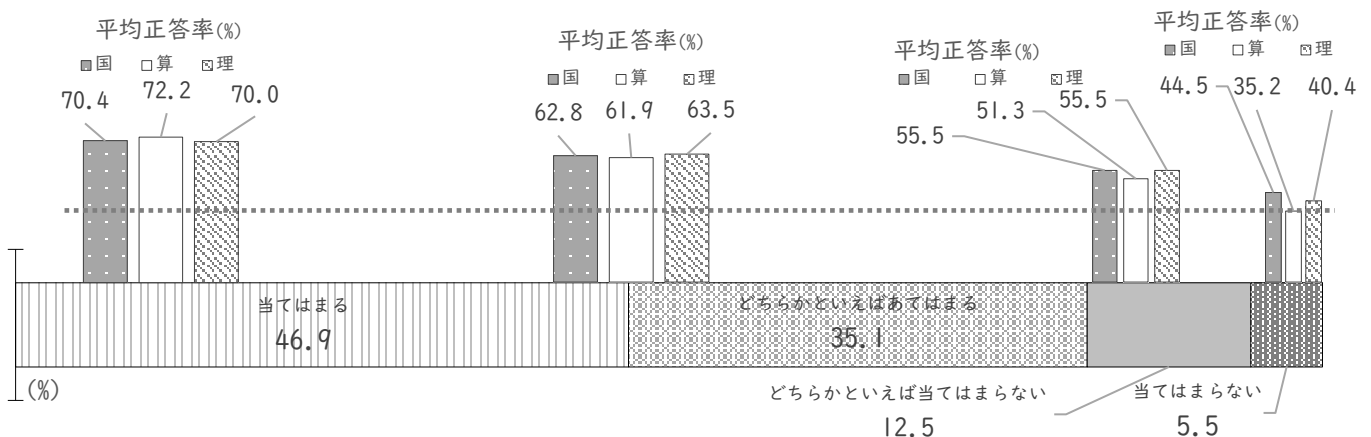
※立川市の平均正答率： 国語 (64.0)、算数 (64.0)、理科 (64.0)
 全国平均正答率： 国語 (65.6)、算数 (63.2)、理科 (63.3)



- ・「当てはまる」と回答した児童は、全ての教科で全国平均正答率よりも正答率が高い（国語+3.3ポイント、算数+9.2、理科+6.1）。「当てはまらない」と回答した児童は、全ての教科で全国平均正答率よりも正答率が低い（国語-6.2ポイント、算数-11.1ポイント、理科-6.4ポイント）
- ・市内19校46学級で考えると、1学級あたり約11名、約9名、約6名、約6名と考えられる。

算数の授業の内容はよく分かりますか

	児童数の割合(%)	平均正答率(%)		
		国語 (14 問)	算数 (16 問)	理科 (17 問)
① 当てはまる	46.9	70.4	72.2	70.0
② どちらかといえば 当てはまる	35.1	62.8	61.9	63.5
③ どちらかといえば 当てはまらない	12.5	55.5	51.3	55.5
④ 当てはまらない	5.5	44.5	35.2	40.4



- ・「当てはまる」と回答した児童は、全ての教科で全国平均正答率よりも正答率が高い（国語+4.8ポイント、算数+9.0、理科+6.7）。「当てはまらない」と回答した児童は、全ての教科で全国平均正答率よりも正答率が低い（国語-21.1ポイント、算数-28ポイント、理科-22.9ポイント）
- ・市内19校46学級で考えると、1学級あたり約15名、約11名、約4名、約1名と考えられる。

3 小学校理科の調査結果

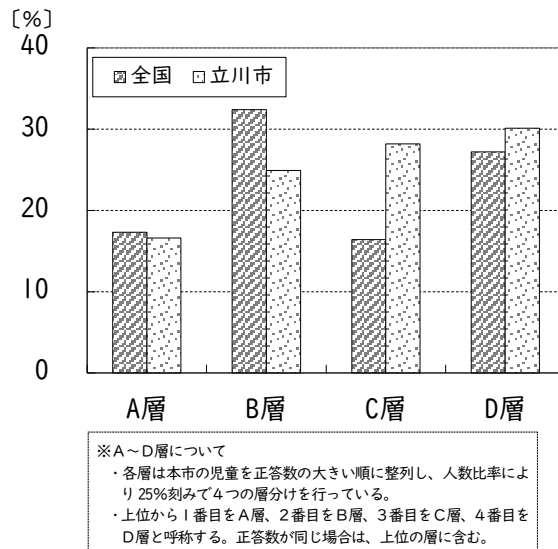
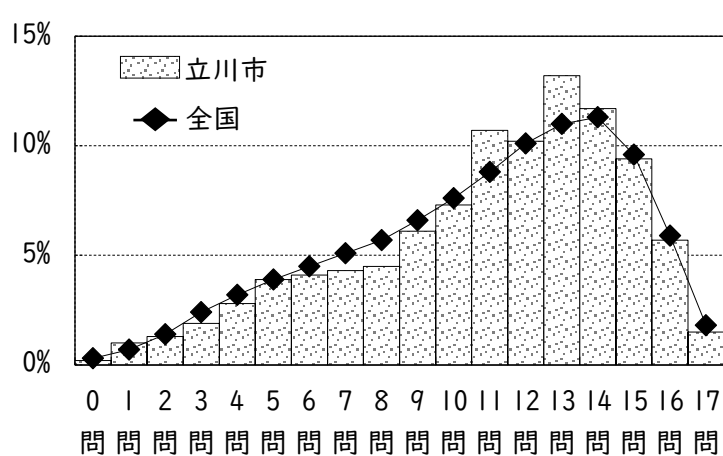
平均正答率 [%]

立川市 64.0

全国 63.3

(1) 調査結果の概要

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合)



◎概要について (令和3年度までと同様、全国と立川市との比較)

- ・正答した人数に対する正答数分布の割合は概ね全国を上回っている。
- ・四分位でみると全国と比較して、A層の割合がやや低く、B層の割合がずいぶん低い。また、Cの割合がずいぶん高く、D層の割合も全国より高い。

(2) 学習指導要領の内容、観点別の結果等

分類			対象問題数 (問)	平均正答率 [%]	
				立川市	全国 (公立)
学習指導要領 の領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	51.2	51.6
		「粒子」を柱とする領域	5	61.3	60.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	5	76.7	75.0
		「地球」を柱とする領域	5	65.0	64.6

分類		対象問題数 (問)	平均正答率 [%]	
			立川市	全国 (公立)
評価の観点	知識・技能	6	63.3	62.5
	思考・判断・表現	11	64.9	63.7
	主体的に学習に取り組む態度	0	-	-

問題形式	選択式	11	68.6	66.8
	短答式	3	66.4	66.2
	記述式	3	46.4	47.3

※表内、立川と全国のうちいずれか正答率が高い方に網かけ、右頁無回答率が低い方に網かけ、無回答率が10%を上回る設問は太枠囲み

(3) 設問ごとの正答率

[%]

設問 番号 (問題形式)	設問の概要	出題の趣旨	立川市（公立）		全国（公立）	
			正答率	無解答率	正答率	無解答率
1(1) (選択式)	見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ	問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる	93.4	0.0	92.9	0.2
1(2) (記述式)	自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く	自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	68.0	5.2	67.5	5.0
1(3) (選択式)	昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ	昆虫の体のつくりを理解している	74.6	0.3	73.1	0.3
1(4) (選択式)	資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ	提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	79.2	1.0	76.1	0.7
1(5) (選択式)	育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見いだして選ぶ	観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	68.3	1.4	65.5	1.4
2(1) (短答式)	一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く	メスシリンダーという器具を理解している	72.2	9.1	67.8	9.8
2(2) (選択式)	水 50mL をはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ	メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている	72.8	0.8	70.0	0.6
2(3) (選択式)	水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ	自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる	66.0	1.0	62.8	1.0
2(4) (記述式)	凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く	自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	38.0	8.7	39.3	8.7
3(1) (選択式)	光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ	日光は直進することを理解している	27.5	0.7	27.8	0.6
3(2) (選択式)	実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ	問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している	74.7	2.0	74.4	1.3
3(3) (短答式)	鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く	自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる	69.3	5.4	68.9	5.1
3(4) (記述式)	問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	33.2	12.8	35.1	11.2
4(1) (選択式)	冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ	観察で得た結果を、問題の視点で析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	85.1	1.4	82.3	1.0
4(2) (選択式)	夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ	予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる	67.1	1.8	64.5	1.3
4(3) (選択式)	結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ	観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	45.9	8.0	45.5	6.5
4(4) (短答式)	鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものなのかを書く	水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している	57.7	6.8	62.0	6.2

(4) 授業改善に向けて

設問

2

【出題の趣旨】

メスシリンダーという器具を理解し、メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けているかどうかをみる。

設問 2(4)の分析等

- ◆自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することができていないことが考えられる。
- ◆自然の事物・現象や他者の気付きを基に、分析して、解釈し、自分の考えをもつことができていないことが考えられる。

学習指導に当たって

自然の事物・現象に働きかけて得た事実を比較し、差異点や共通点を捉えることができるようにする。
自然の事物・現象に働きかけて得た事実について話し合う中で、自分や他者の気付きを捉え、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす場面を設定する。

授業アイデア例

「水溶液の性質」

～自然の事物・現象や自他の気付きを基に、問題を見いだす～



設問

3

【出題の趣旨】

日光は直進することを理解しているかどうかをみる。

設問 3(1)の分析等

- ◆日光が直進するといった光の性質について理解できていないことなどが考えられる。三角形に切り抜いた段ボールの板によって光が曲がると捉えたりしていることが考えられる。
- ◆日光は直進するという知識を問題の状況と関連付けて考えることができていないことも考えられる。

学習指導に当たって

知識をより深く理解できるようにするために、主体的な問題解決を通して知識を習得できるようにするとともに、習得した知識を実際の自然の事物・現象と関連付けて説明できるようにする。

はね返した日光を地面に当てたり、はね返した日光の間に紙を入れたりするなどして、主体的に問題解決をする中で、はね返した日光が直進することを捉えさせ、本設問のような場면을説明できるようにする。

授業アイデア例

「てこの規則性」

～結果を基に結論の根拠を明らかにして表現する～



設問

4

【出題の趣旨】

観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。

設問 4(3)の分析等

- ◆提示された資料から数量、変化の大きさなどを分析して、解釈し、自分の考えをもつことができていないことが考えられる。
- ◆晴れた夜を示す選択肢だけではなく、曇った夜を示す選択肢も選んでいるため、天気や気温の時間による変化、昼夜を基に、提示された結果を分析して、解釈し、自分の考えをもつことができていないことが考えられる。

学習指導に当たって

観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにするために、提示された資料から数量、変化の大きさなどの特徴を読み取り、自分の考えを表現できるようにする。

結果などから結論を導きだすために必要な数量、変化の大きさなどの特徴を見付けさせ、自分の考えをもち、それらを話し合わせる場面を設定する。

授業アイデア例

「天気の変化」

～他者の考えや意見を受け、解決の方法の妥当性を検討する～

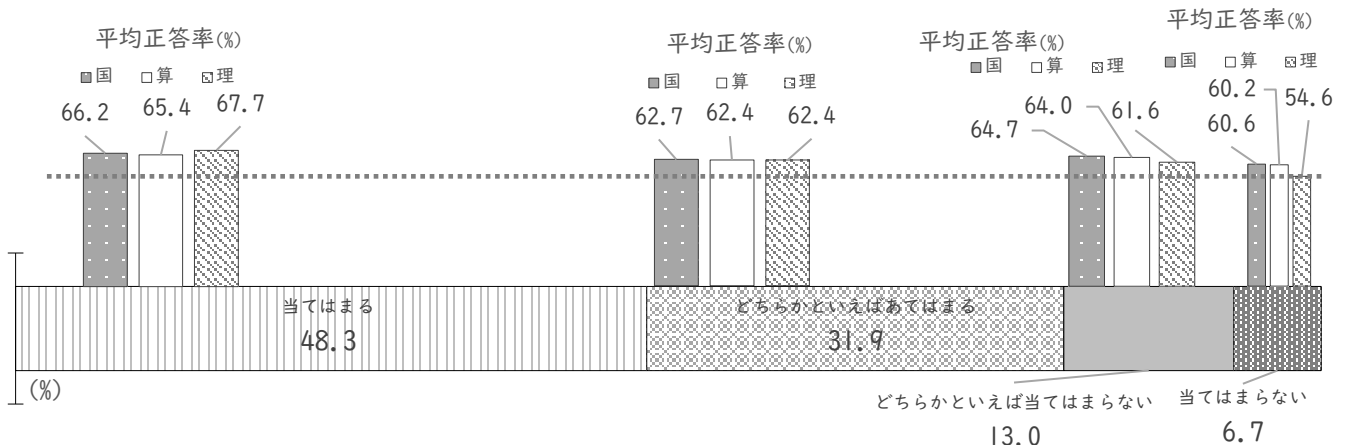


(5) 児童質問紙の回答と平均正答率との相関

理科の勉強は好きですか

	児童数の割合(%)	平均正答率(%)		
		国語 (14 問)	算数 (16 問)	理科 (17 問)
① 当てはまる	48.3	66.2	65.4	67.7
② どちらかといえば、当てはまる	31.9	62.7	62.4	62.4
③ どちらかといえば、当てはまらない	13.0	64.7	64.0	61.6
④ 当てはまらない	6.7	60.6	60.2	54.6

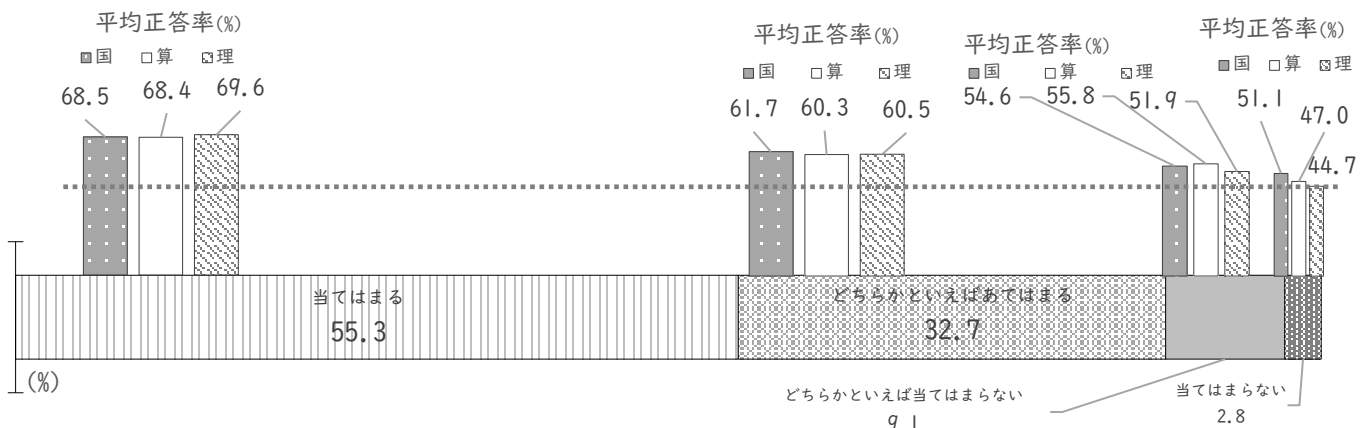
※立川市の平均正答率： 国語 (64.0)、算数 (64.0)、理科 (64.0)
 全国平均正答率： 国語 (65.6)、算数 (63.2)、理科 (63.3)



- ・「当てはまる」と回答した児童は、全ての教科で全国平均正答率よりも正答率が高い（国語+0.6 ポイント、算数+2.2、理科+4.4）。「当てはまらない」と回答した児童は、全ての教科で全国平均正答率よりも正答率が低い（国語-5.0 ポイント、算数-3.0 ポイント、理科-8.7 ポイント）
- ・市内 19 校 46 学級で考えると、1 学級あたり約 16 名、約 10 名、約 4 名、約 2 名と考えられる。

理科の授業の内容はよく分かりますか

	児童数の割合(%)	平均正答率(%)		
		国語 (14 問)	算数 (16 問)	理科 (17 問)
① 当てはまる	55.3	68.5	68.4	69.6
② どちらかといえば、当てはまる	32.7	61.7	60.3	60.5
③ どちらかといえば、当てはまらない	9.1	54.6	55.8	51.9
④ 当てはまらない	2.8	51.1	47.0	44.7



- ・「当てはまる」と回答した児童は、全ての教科で全国平均正答率よりも正答率が高い（国語+2.9 ポイント、算数+5.2、理科+6.3）。「当てはまらない」と回答した児童は、全ての教科で全国平均正答率よりも正答率が低い（国語-14.5 ポイント、算数-16.2 ポイント、理科-18.6 ポイント）
- ・市内 19 校 46 学級で考えると、1 学級あたり約 18 名、約 10 名、約 3 名、約 1 名と考えられる。

4 中学校国語の調査結果

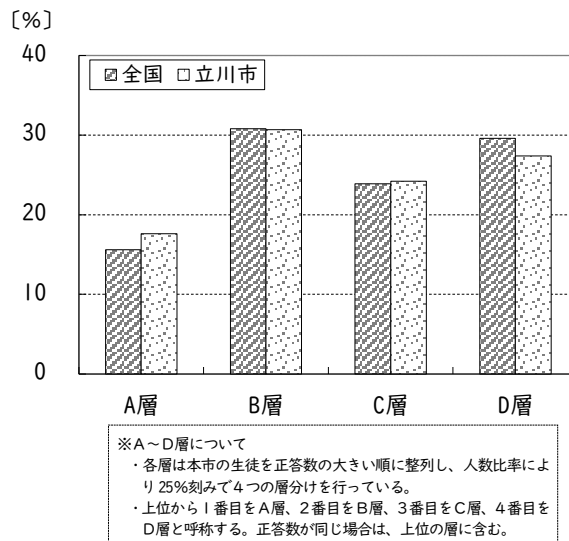
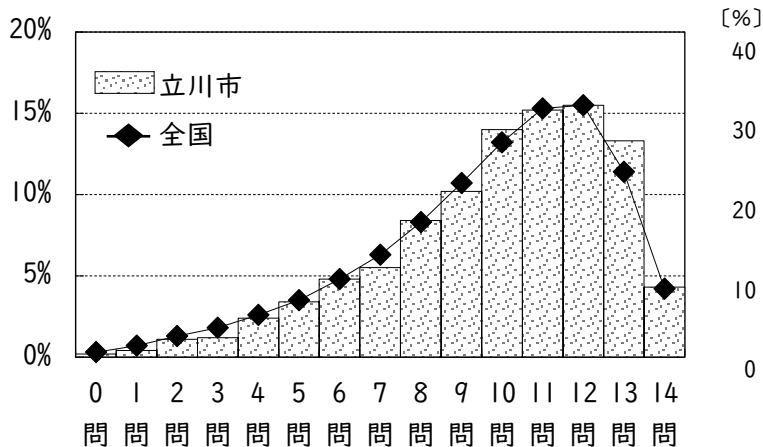
平均正答率 [%]

立川市 70.0

全国 69.0

(1) 調査結果の概要

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合）



◎概要について（令和3年度までと同様、全国と立川市との比較）

- ・正答数分布は、全国とほぼ同数である。
- ・四分位でみると全国と比較して、A層の割合がやや高く、D層はやや低い。

(2) 学習指導要領の内容、観点別の結果等

分類			対象問題数 (問)	平均正答率 [%]	
				立川市	全国（公立）
			全体	70.0	69.0
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	6	73.4	72.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	42.4	46.5
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	71.3	70.2
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	66.8	63.9
		B 書くこと	1	42.4	46.5
		C 読むこと	2	71.9	67.9

分類			対象問題数 (問)	平均正答率 [%]	
				立川市	全国（公立）
評価の観点	知識・技能		10	69.7	69.0
	思考・判断・表現		6	64.4	62.3
	主体的に学習に取り組む態度		0	-	-

問題形式	選択式	6	75.4	73.7
	短答式	5	72.0	70.3
	記述式	3	58.1	57.4

※表内、立川と全国のうちいずれか正答率が高い方に網かけ、右頁無回答率が低い方に網かけ、無回答率が10%を上回る設問は太枠囲み

(3) 設問ごとの正答率

[%]

設問番号 (問題形式)	設問の概要	出題の趣旨	立川市（公立）		全国（公立）	
			正答率	無解答率	正答率	無解答率
1ー (短答式)	スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す	聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する	76.7	2.3	74.7	3.8
1二 (選択式)	話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する	論理の展開などに注意して聞く	69.6	0.1	65.1	0.1
1三 (記述式)	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す	54.0	13.5	51.8	16.2
2ー (選択式)	意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す意図として適切なものを選択する	助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う	83.1	0.1	82.3	0.2
2二 ① (短答式)	漢字を書く（のぞく）	文脈に即して漢字を正しく書く	83.9	9.7	82.1	8.8
2二 ② (短答式)	漢字を書く（よろこんで）		79.7	2.6	80.5	3.3
2三 (記述式)	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く	42.4	7.3	46.5	9.0
3ー (短答式)	「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する	表現の技法について理解する	53.9	1.1	52.5	0.7
3二 (選択式)	「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解する	85.6	0.4	84.0	0.3
3三 (短答式)	話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える	場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える	66.0	0.9	62.0	1.0
3四 (記述式)	「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く	場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する	77.8	11.3	73.8	13.3
4ー (選択式)	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解する	42.6	1.4	39.4	0.9
4二 (選択式)	最初にした文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する	漢字の行書の読みやすい書き方について理解する	90.6	1.6	90.1	1.0
4三 (選択式)	書き直した文字の「と」の書き方について説明したものとして適切なものを選択する	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する	80.9	1.6	81.1	1.1

(4) 授業改善に向けて

設問 1

【出題の趣旨】

- 聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫すること
- 論理の展開などに注意して聞くこと
- 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すこと

設問1三の分析等

- ◆スピーチの内容を踏まえて話のどの部分を工夫するのかを具体的に考えることができていないと考えられる。
- ◆10%程度の生徒は、話し方を工夫する意図を明確にすること、具体的な話し方の工夫について考えること、工夫して話す部分を具体的に取り上げることに課題があると考えられる。

学習指導に当たって

自分の考えを分かりやすく伝わるように話すために、聞き手に応じた語句の選択、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどへの注意を行い、表現を工夫できるようにする。

アクセント、イントネーション、プロミネンスなどの音声的特質が多様な声を作り出し、話したり聞いたりする活動に影響していることが認識できるように、実際に声に出しながら工夫を考えさせたり効果を確かめられるようにする。

授業アイデア例

音声の働きや仕組みを意識しながら表現を工夫して話す



設問 2

【出題の趣旨】

- 助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使うこと
- 文脈に即して漢字を正しく書くこと
- 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと

設問2三の分析等

- ◆考えの根拠が明確になるように資料から必要な情報を引用して意見文の一部を書くことに課題があると考えられる。
- ◆46.5%の生徒が、3つの正答の条件のうち、引用する部分をかきかっでくって書くことだけを満たしていなかった。

学習指導に当たって

自分の思いや考えを繰り返すだけではなく、根拠となる複数の事例や専門的な立場からの知見を引用できるようにする。

引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使う活動を設定する。

授業アイデア例

考えの根拠が明確になるように情報を引用して書く



設問 4

【出題の趣旨】

- 行書の特徴を理解すること
- 漢字の行書の読みやすい書き方について理解すること
- 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解すること

設問4一の分析等

- ◆行書と楷書の違いについての理解、行書における「省略」、「連続」の理解、また、「点画」の意味が理解できていないものと考えられる。
- ◆43.5%の生徒が、行書における「省略」、「連続」が理解できていないものと考えられる。

学習指導に当たって

直線的な点画で構成されている漢字を行書で書く際の行書の特徴を理解して書けるようにする。

同じ文字を楷書で書いたものと行書で書いたものとを比較できるようにしたり、点画の連続や点画の省略、筆順の変化などの行書の特徴が、実際に行書で書いた文字のどの部分に表れているのかを確かめたりできるようにする。

授業アイデア例

楷書の学習を踏まえ、行書の特徴を理解して書く

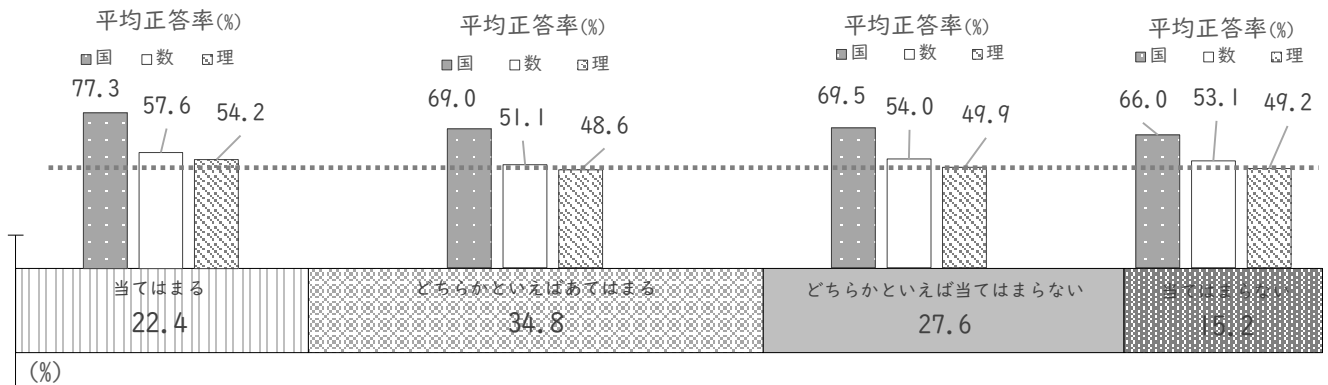


(5) 生徒質問紙の回答と平均正答率との相関

国語の勉強は好きですか

	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
		国語 (14 問)	数学 (14 問)	理科 (21 問)
① 当てはまる	22.4	77.3	57.6	54.2
② どちらかといえば 当てはまる	34.8	69.0	51.1	48.6
③ どちらかといえば 当てはまらない	27.6	69.5	54.0	49.9
④ 当てはまらない	15.2	66.0	53.1	49.2

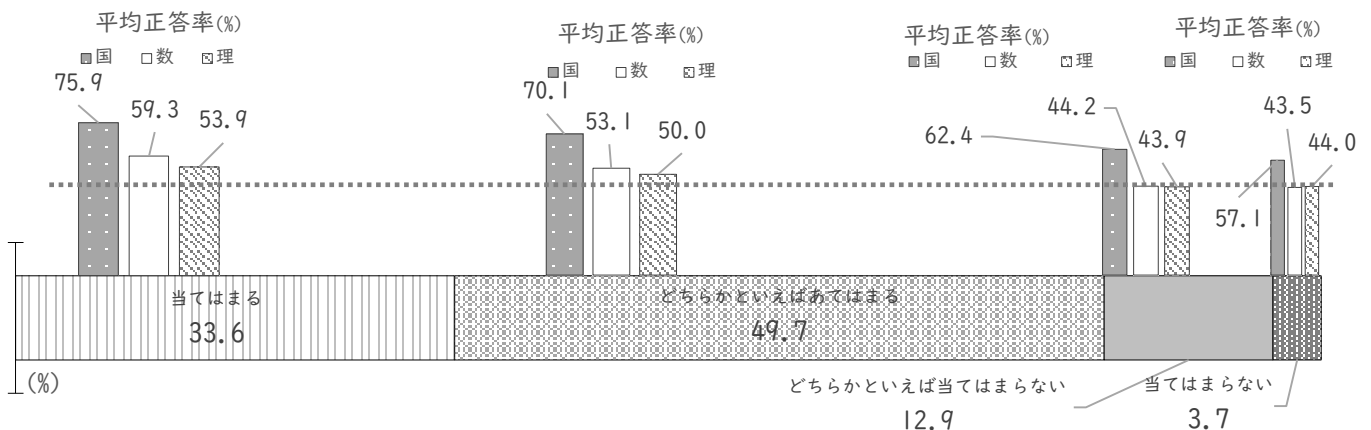
※立川市の平均正答率： 国語 (70.0)、数学 (54.0)、理科 (50.0)
 全国平均正答率： 国語 (69.0)、数学 (51.4)、理科 (49.3)



- ・「当てはまる」と回答した生徒は、全ての教科で全国平均正答率よりも正答率が高い（国語+8.3ポイント、数学+6.2、理科+4.9）。「当てはまらない」と回答した生徒は、全ての教科で全国平均正答率よりも正答率が低い（国語-3.0ポイント、数学-1.7ポイント、理科-0.1ポイント）
- ・市内9校36学級で考えると、1学級あたり約7名、約11名、約9名、約5名と考えられる。

国語の授業の内容はよく分かりますか

	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
		国語 (14 問)	数学 (14 問)	理科 (21 問)
① 当てはまる	33.6	75.9	59.3	53.9
② どちらかといえば 当てはまる	49.7	70.1	53.1	50.0
③ どちらかといえば 当てはまらない	12.9	62.4	44.2	43.9
④ 当てはまらない	3.7	57.1	43.5	44.0



- ・「当てはまる」と回答した生徒は、全ての教科で全国平均正答率よりも正答率が高い（国語+6.9ポイント、数学+7.9、理科+4.6）。「当てはまらない」と回答した生徒は、全ての教科で全国平均正答率よりも正答率が低い（国語-11.9ポイント、数学-7.9ポイント、理科-5.3ポイント）
- ・市内9校36学級で考えると、1学級あたり約12名、約16名、約4名、約2名と考えられる。

5 中学校数学の調査結果

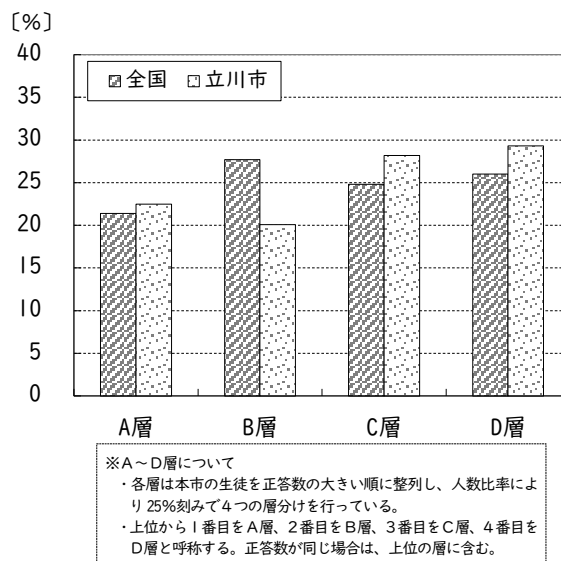
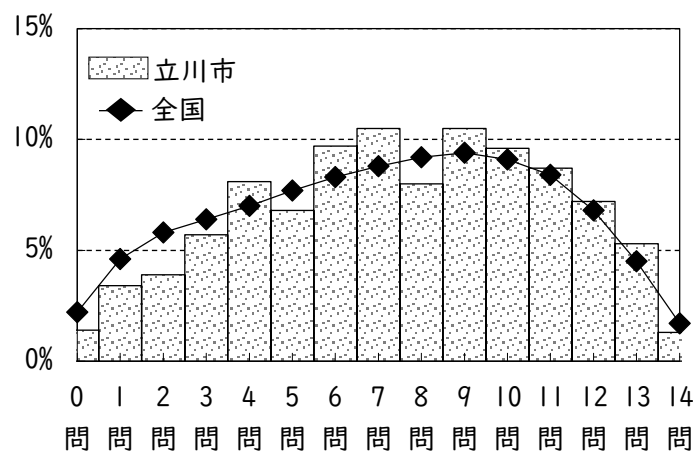
平均正答率 [%]

立川市 54.0

全国 51.4

(1) 調査結果の概要

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合)



◎概要について (令和3年度までと同様、全国と立川市との比較)

- ・正答数分布を見ると、全国とほぼ同数だが、概ね上回っている。
- ・四分位でみると全国と比較して、A層の割合がやや高く、B層がずいぶん低い。C層とD層の割合は、いずれも全国より高い。

(2) 学習指導要領の内容、観点別の結果等

分類		対象問題数 (問)	平均正答率 [%]	
			立川市	全国 (公立)
学習指導要領 の領域	A 数と式	5	58.4	57.4
	B 図形	3	47.9	43.6
	C 関数	3	47.2	43.6
	D データの活用	3	57.4	57.1

分類		対象問題数 (問)	平均正答率 [%]	
			立川市	全国 (公立)
評価の観点	知識・技能	9	61.3	59.9
	思考・判断・表現	5	39.6	36.2
	主体的に学習に取り組む態度	0	-	-

問題形式	選択式	4	54.1	52.6
	短答式	5	67.1	65.7
	記述式	5	39.6	36.2

※表内、立川と全国のうちいずれか正答率が高い方に網かけ、右頁無回答率が低い方に網かけ、無回答率が10%を上回る設問は太枠囲み

(3) 設問ごとの正答率

[%]

設問番号 (問題形式)	設問の概要	出題の趣旨	立川市（公立）		全国（公立）	
			正答率	無解答率	正答率	無解答率
1 (短答式)	42を素因数分解する	自然数を素数の積で表すことができる	40.1	15.0	52.2	11.5
2 (短答式)	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 2x + y = 1 \\ y = x + 4 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	79.2	3.8	74.5	6.1
3 (選択式)	ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ	反例の意味を理解している	48.1	0.4	44.9	0.4
4 (選択式)	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	一次関数の変化の割合の意味を理解している	41.5	0.5	37.9	0.4
5 (選択式)	容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している	83.0	0.4	83.3	0.3
6(1) (短答式)	同じ偶数の和である $2n + 2n = 4n$ について、 n が9のときどのような計算を表しているかを書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	79.1	4.9	73.8	6.0
6(2) (記述式)	差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	54.5	15.4	48.7	20.0
6(3) (記述式)	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	39.3	25.1	37.6	26.2
7(1) (記述式)	コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を算数的な表現を用いて説明することができる	45.2	1.5	44.0	1.4
7(2) (選択式)	箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ	箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる	44.0	0.7	44.1	0.7
8(1) (短答式)	与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる	57.5	4.1	54.6	7.2
8(2) (記述式)	目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する	事象を算数的に解釈し、問題解決の方法を算数的に説明することができる	42.8	21.6	38.4	24.4
9(1) (短答式)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	79.5	5.1	73.2	7.5
9(2) (記述式)	$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	16.0	39.7	12.5	38.5

(4) 授業改善に向けて

設問 6

【出題の趣旨】

関数を用いて事象を捉え考察する場面において必要となる、次のことができるかどうかをみる。

- ・ 事象の特徴を的確に捉えること。
- ・ 一次関数の変化の割合の意味を理解していること。

設問 6 (3) の分析等

- ◆ 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見いだしたものの、説明することに課題があると考えられる。
- ◆ どのような 2 つの偶数の和が 4 の倍数になるかを求めようとしたが、和が 4 の倍数になる 2 つの偶数の特徴について見いだすことができなかったと考えられる。

学習指導に当たって

結論が成り立つための前提を捉え、見いだした事柄を算数的に表現できるようにする。

成り立つ事柄を予想するために、具体的な数を用いて、どんな特徴があるのかについて話し合う場面などを設定する。

授業アイデア例

2 つの偶数の和が 4 の倍数になる条件を見いだそう
～説明を振り返り、統合的・発展的に考察する～



設問 7

【出題の趣旨】

データに基づいて不確定な事象を考察する場面において、次のことができるかどうかをみる。

- ・ 解決の過程や結果を批判的に考察し判断すること。
- ・ 事象を算数的に解釈し、その根拠を算数的な表現を用いて説明すること。
- ・ 算数的に表現したことを事象に即して解釈すること

設問 7 (2) の分析等

- ◆ ヒストグラムの散らばりのみに着目したと考えられる。データの傾向を的確に捉え、判断の理由を算数的な表現を用いて説明することに課題があると考えられる。
- ◆ 39.4% の生徒は、データの個数は高位置よりも中位置のほうが少なく、データの散らばりの程度は、高位置よりも中位置の方が小さいと捉えていた。

学習指導に当たって

データの分布の傾向について読み取ったことや、判断の理由について話し合う場面を設定する。

複数の集団のデータの分布に着目し、四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解できるようにする。

箱のできる位置や四分位範囲、中央値、最大値、最小値などに着目して考察できるようにする。

分布の形など失われる情報もあるため、必要に応じて箱ひげ図とヒストグラムを関連付けて用いることができるようにする。

授業アイデア例

コマが回る時間の傾向を捉えて説明しよう
～データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断する～



設問 9

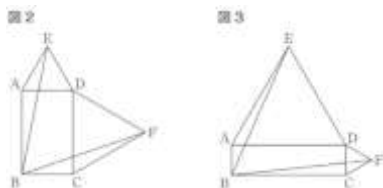
【出題の趣旨】

図形の性質を考察する場面において、次のことができるかどうかをみる。

- ・ 筋道を立てて考えること。
- ・ 事象に即して解釈したことを算数的に表現すること。
- ・ 事柄が成り立つ理由を算数的に説明すること。

設問 9 の分析等

- ◆ 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題があると考えられる。



$\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になる説明

設問 9 (2)

- ・ 正答率 16.0% (全国 12.5%)
- ・ 無回答率 39.7% (全国 38.5%)

学習指導に当たって

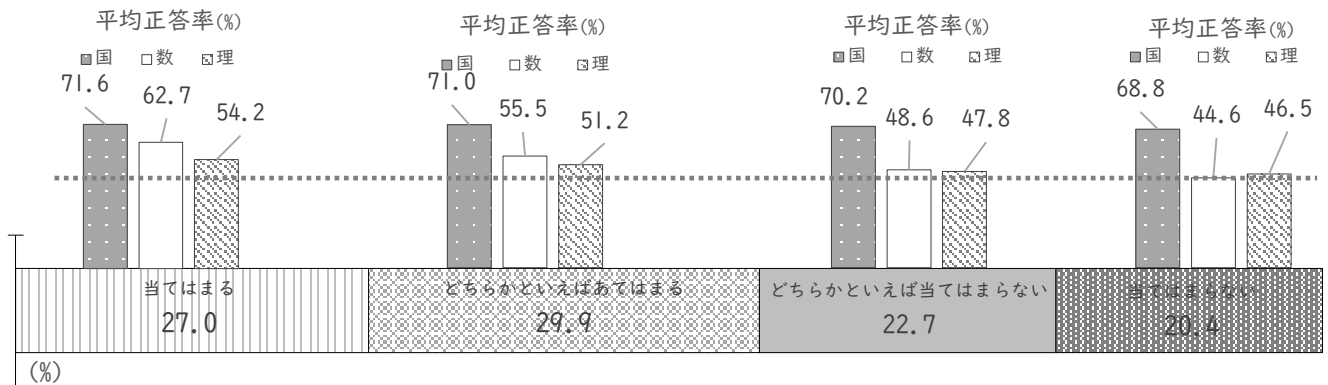
結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を、筋道を立てて考えたりする活動を取り入れ、数学的に説明できるようにする。

(5) 生徒質問紙の回答と平均正答率との相関

数学の勉強は好きですか

	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
		国語 (14 問)	数学 (14 問)	理科 (21 問)
① 当てはまる	27.0	71.6	62.7	54.2
② どちらかといえば 当てはまる	29.9	71.0	55.5	51.2
③ どちらかといえば 当てはまらない	22.7	70.2	48.6	47.8
④ 当てはまらない	20.4	68.8	44.6	46.5

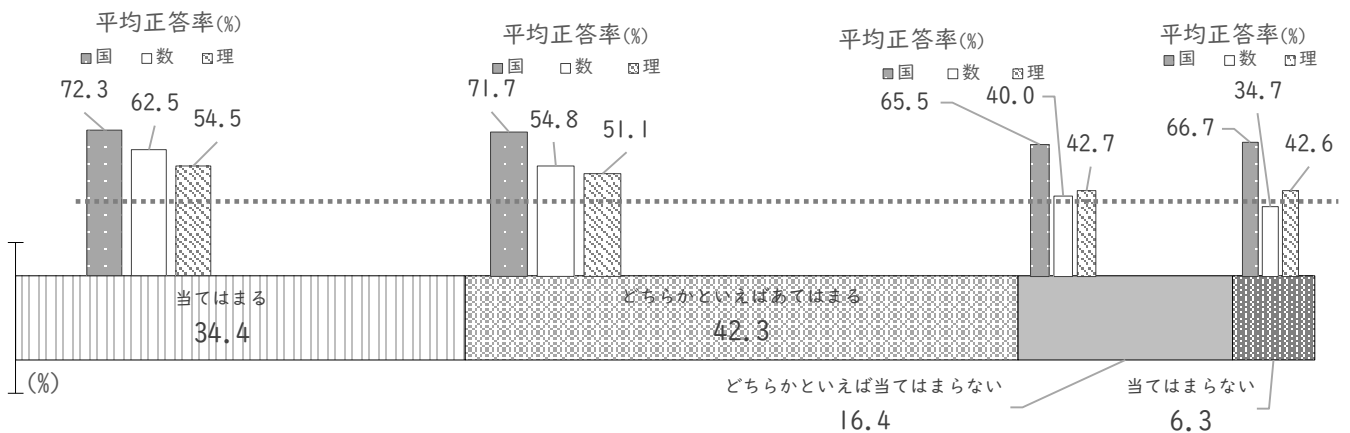
※立川市の平均正答率： 国語 (70.0)、数学 (54.0)、理科 (50.0)
 全国平均正答率： 国語 (69.0)、数学 (51.4)、理科 (49.3)



- ・「当てはまる」と回答した生徒は、全ての教科で全国平均正答率よりも正答率が高い（国語+2.6ポイント、数学+11.3、理科+4.9）。「当てはまらない」と回答した生徒は、全ての教科で全国平均正答率よりも正答率が低い（国語-0.2ポイント、数学-6.8ポイント、理科-2.8ポイント）
- ・市内9校36学級で考えると、1学級あたり約9名、約10名、約8名、約7名と考えられる。

数学の授業の内容はよく分かりますか

	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
		国語 (14 問)	数学 (14 問)	理科 (21 問)
① 当てはまる	34.4	72.3	62.5	54.5
② どちらかといえば 当てはまる	42.3	71.7	54.8	51.1
③ どちらかといえば 当てはまらない	16.4	65.5	40.0	42.7
④ 当てはまらない	6.3	66.7	34.7	42.6



- ・「当てはまる」と回答した生徒は、全ての教科で全国平均正答率よりも正答率が高い（国語+3.3ポイント、数学+11.1、理科+5.2）。「当てはまらない」と回答した生徒は、全ての教科で全国平均正答率よりも正答率が低い（国語-2.3ポイント、数学-16.7ポイント、理科-6.7ポイント）
- ・市内9校36学級で考えると、1学級あたり約11名、約14名、約6名、約2名と考えられる。

6 中学校理科の調査結果

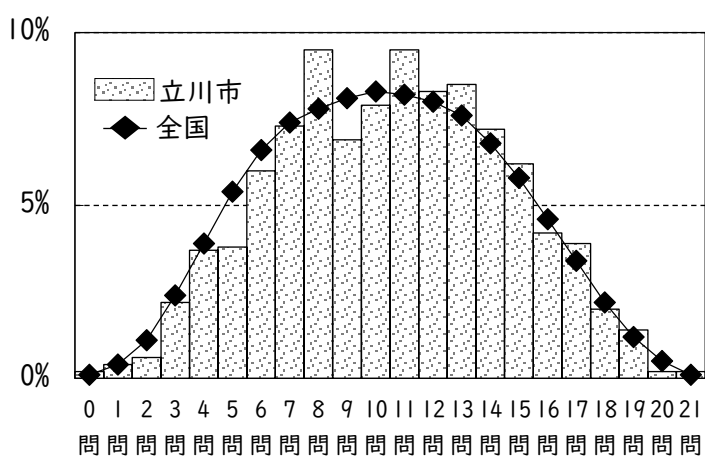
平均正答率 [%]

立川市 50.0

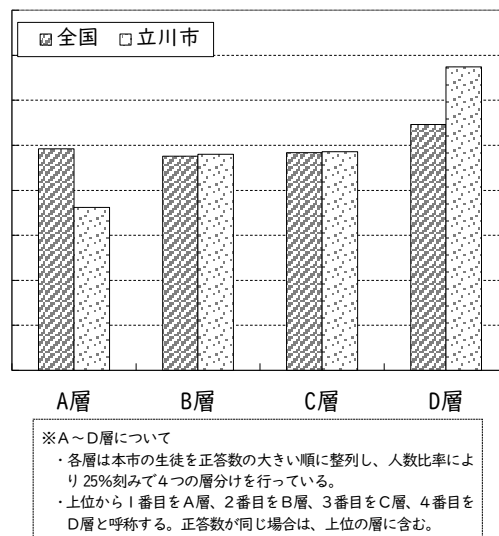
全国 49.3

(1) 調査結果の概要

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合)



[%]



◎概要について (令和3年度までと同様、全国と立川市との比較)

- ・正答数分布をみると、全国とほぼ同数だが、やや下回っている。
- ・四分位でみると全国と比較して、A層の割合がずいぶん低く、D層の割合はずいぶん高い。B層、C層の割合は概ね同等である。

(2) 学習指導要領の内容、観点別の結果等

分類			対象問題数 (問)	平均正答率 [%]	
				立川市	全国 (公立)
学習指導要領 の領域	第1分野	「エネルギー」を柱とする領域	6	42.7	41.9
		「粒子」を柱とする領域	5	51.6	50.9
	第2分野	「生命」を柱とする領域	5	60.3	57.9
		「地球」を柱とする領域	6	44.4	44.3

分類		対象問題数 (問)	平均正答率 [%]	
			立川市	全国 (公立)
評価の観点	知識・技能	7	45.8	46.1
	思考・判断・表現	14	52.5	51.0
	主体的に学習に取り組む態度	0	-	-

問題形式	選択式	15	50.2	49.6
	短答式	1	25.8	24.8
	記述式	5	55.7	53.5

※表内、立川と全国のうちいずれか正答率が高い方に網かけ、右頁無回答率が低い方に網かけ、無回答率が10%を上回る設問は太枠囲み

(3) 設問ごとの正答率

[%]

設問 番号 (問題形式)	設問の概要	出題の趣旨	立川市（公立）		全国（公立）	
			正答率	無解答率	正答率	無解答率
1（1） (選択式)	日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する	日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	46.2	0.1	44.2	0.1
1（2） (選択式)	タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する	モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる	80.8	0.1	78.5	0.1
2（1） (選択式)	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる	53.8	0.2	54.2	0.2
2（2） (選択式)	気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する	継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる	41.3	0.4	40.8	0.3
2（3） (選択式)	上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する	飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる	32.0	0.4	28.5	0.3
3（1） (選択式)	分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる	80.4	0.3	80.1	0.1
3（2） (選択式)	水素を燃料として使うしくみの例の水の質素の変化について、適切なものを選択する	水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の観点から化学変化に関わる水の質素が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる	61.2	0.4	60.2	0.3
3（3） (短答式)	水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する	化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもととして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる	25.8	4.1	24.8	4.3
4（1） (記述式)	ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する	節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと動きを分析して解釈できるかどうかをみる	73.8	4.4	74.5	5.5
4（2） (選択式)	脊椎動物には骨格のつくり共通点があることから、カラスの関節Aに対応するヒトとカエルのはし関節を選択する	複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる	67.2	0.2	65.6	0.2
5（1） (選択式)	おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する	力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる	12.4	0.2	15.3	0.2
5（2） (選択式)	「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する	課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる	47.1	0.4	45.0	0.4
5（3） (記述式)	考察の妥当性を高めるために、測定する範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する	考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の観点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる	44.0	29.8	43.3	29.4
6（1） (選択式)	玄武岩の露頭で化石の観察が可能な半断し、その理由を選択する	玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	44.3	0.3	48.0	0.3
6（2） (短答式)	陸上のB地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する	過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけでなく推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみる	60.1	0.5	60.3	0.6
6（3） (選択式)	東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する	地層の広がりに方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる	34.9	0.9	34.2	0.7
7（1） (選択式)	液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する	液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	36.6	0.4	35.9	0.4
7（2） (記述式)	吸湿発熱繊維に水蒸気を多く含む空気を通した一つの実験だけで行った考察について、課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘する	実験の結果が考察の根拠として十分かどうかを検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる	54.1	1.1	53.4	1.0
8（1） (記述式)	アリの視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する	アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる	58.7	11.0	55.2	11.6
8（2） (記述式)	予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する	予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察・実験の操作や条件制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見直しをもつことができるかどうかをみる	54.8	15.5	55.1	14.9
8（3） (記述式)	生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する	未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる	47.1	1.4	39.2	1.4

(4) 授業改善に向けて

設問
2

【出題の趣旨】

天気の変化を科学的に探究する学習場面において、百葉箱の観測データと空の様子を撮影した画像、天気図を関連付け、気象に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる。

設問 2(3)

- ・ 正答率 32.0% (全国 28.5%)
- ・ 無回答率 0.4% (全国 0.3%)

設問 2(3)の分析等

- ◆飛行機雲の残り方に関する考察の妥当性を検討する際、雲が発生する高さの観測データが必要であることを考慮させる指導の充実が求められる。
- ◆飛行機雲の高さの観測データが必要であると判断できていない誤答のうち、38%の生徒が温度に関する知識を利用して、飛行機雲の残り方を考察していた。また、23%の生徒は飛行機雲の残り方と湿度の関係には着目していた。

学習指導に当たって

自然の事物・現象を科学的に探究する上で、自分や他者の考察について根拠が妥当か、多面的、総合的に検討して改善できるようにする。

用いた観測データが自然の事物・現象と対応しているか、観測データの読み取りが適切であるかなどの視点を明示して考察できるようにする。

授業アイディア例

考察に用いた観測データが妥当か検討し、考察を深める



設問
3

【出題の趣旨】

水素の利用について科学的に探究する学習場面において、化学変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる。

設問 3(3)

- ・ 正答率 25.8% (全国 24.8%)
- ・ 無回答率 4.1% (全国 4.3%)

設問 3(3)の分析等

- ◆化学変化と「エネルギー」を柱とする領域に関する知識及び技能を関連付け、分析して解釈する指導の充実が求められる。
- ◆43%の生徒は「電気分解又は燃焼に関する物質」と回答しており、化学変化に関する知識と「エネルギー」を柱とする領域の知識を関連付け、分析して解釈することに課題があると考えられる。

学習指導に当たって

身近な現象を科学的に探究する上で、水の電気分解や水素の燃焼などの化学変化には、電気、熱、光など「エネルギー」を柱とする領域が関連していることに気付くことができるようにする。

化学変化を起こすきっかけとなるエネルギーの形態だけでなく、それらが生み出される過程について丁寧に触れる。

授業アイディア例

ICT 機器を活用して、化学変化を原子や分子のモデルを基に化学反応式で表す



設問
5

【出題の趣旨】

ばねを押すときの力の大きさとばねが縮む長さの関係を科学的に探究する学習場面において、力の働きに関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる。

設問 5(1)

- ・ 正答率 12.4% (全国 15.3%)
- ・ 無回答率 0.2% (全国 0.2%)

設問 5(1)の分析等

- ◆静止している物体に働く重力とつり合う力を矢印で表す指導の充実が求められる。
- ◆63.1%の生徒は、おもりに働く重力とつり合う力の説明は指摘しているが、つり合う力を矢印で表したものを指摘していないことから、作用点の力を矢印の始点として表すことに課題があると考えられる。

学習指導に当たって

力の働きについて科学的に探究する上で、力は大きさと向きによって表されることや物体に働く2力のつり合いなど、目に見えない力を矢印で説明できるようにする。

物体に力を働かせる実験を行い、一つの物体に二つの力が働いていることに気付くようにし、それらの力の大きさや向きを矢印で表して、つり合いの関係を説明する学習場面を設定する。

授業アイディア例

改善点を明確にし、実験の計画を検討して改善する

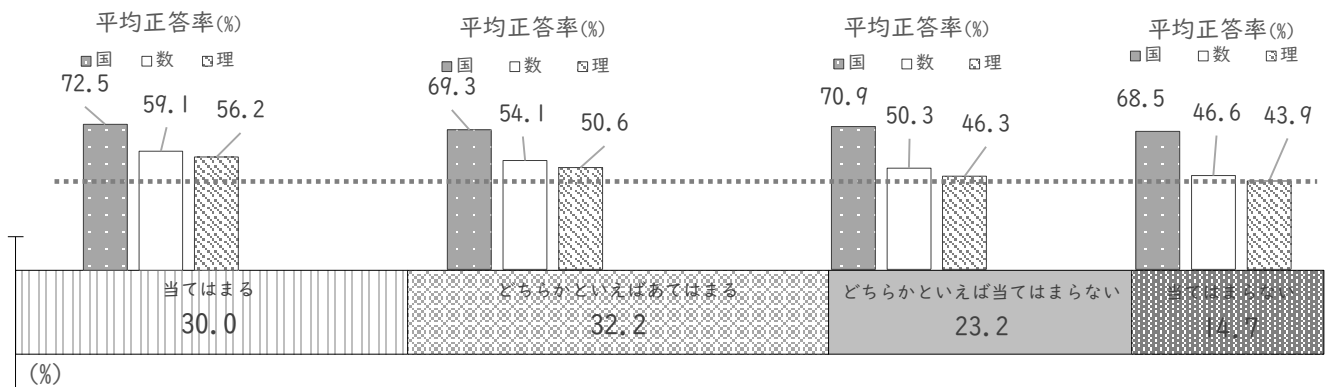


(5) 生徒質問紙の回答と平均正答率との相関

理科の勉強は好きですか

	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
		国語 (14 問)	数学 (14 問)	理科 (21 問)
① 当てはまる	30.0	72.5	59.1	56.2
② どちらかといえば 当てはまる	32.2	69.3	54.1	50.6
③ どちらかといえば 当てはまらない	23.2	70.9	50.3	46.3
④ 当てはまらない	14.7	68.5	46.6	43.9

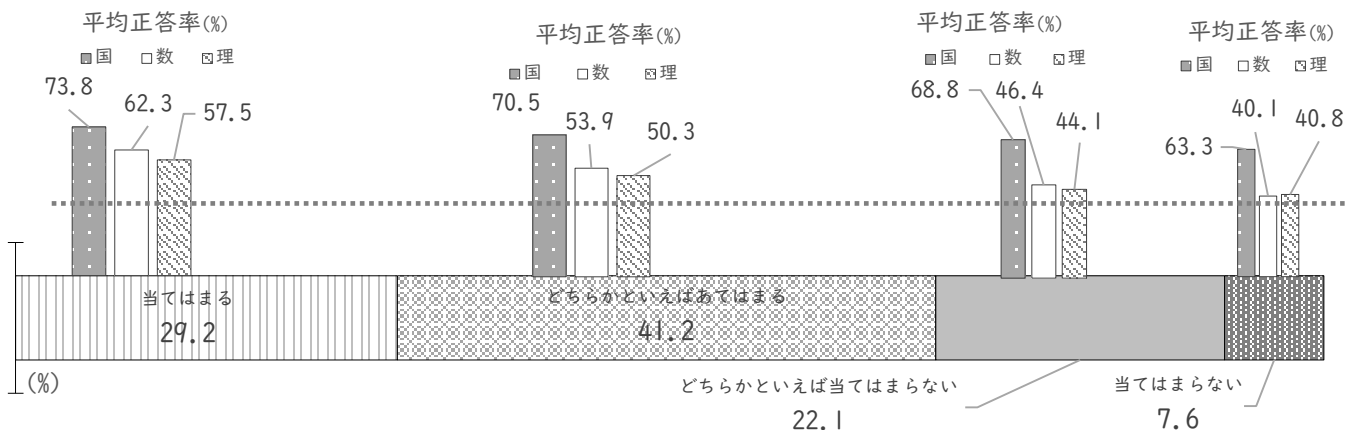
※立川市の平均正答率： 国語 (70.0)、数学 (54.0)、理科 (50.0)
 全国平均正答率： 国語 (69.0)、数学 (51.4)、理科 (49.3)



- ・「当てはまる」と回答した生徒は、全ての教科で全国平均正答率も正答率が高い（国語+3.5ポイント、数学+7.7、理科+6.9）。「当てはまらない」と回答した生徒は、全ての教科で全国平均正答率よりも正答率が低い（国語-0.5ポイント、数学-4.8ポイント、理科-5.4ポイント）
- ・市内9校36学級で考えると、1学級あたり約10名、約10名、約8名、約5名と考えられる。

理科の授業の内容はよく分かりますか

	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
		国語 (14 問)	数学 (14 問)	理科 (21 問)
① 当てはまる	29.2	73.8	62.3	57.5
② どちらかといえば 当てはまる	41.2	70.5	53.9	50.3
③ どちらかといえば 当てはまらない	22.1	68.8	46.4	44.1
④ 当てはまらない	7.6	63.3	40.1	40.8



- ・「当てはまる」と回答した生徒は、全ての教科で全国平均正答率も正答率が高い（国語+4.8ポイント、数学+10.9、理科+8.2）。「当てはまらない」と回答した生徒は、全ての教科で全国平均正答率よりも正答率が低い（国語-5.7ポイント、数学-11.3ポイント、理科-8.5ポイント）
- ・市内9校36学級、1学級あたり約10名、約13名、約7名、約3名と考えられる。

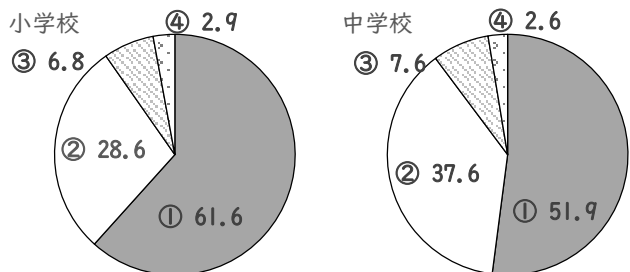
7 学習に関する調査結果の概要〈授業改善のポイント〉

(1) 児童・生徒質問紙の回答と各教科における授業改善のポイント

① 当てはまる ② どちらかといえば、当てはまる ③ どちらかといえば、当てはまらない ④ 当てはまらない

国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

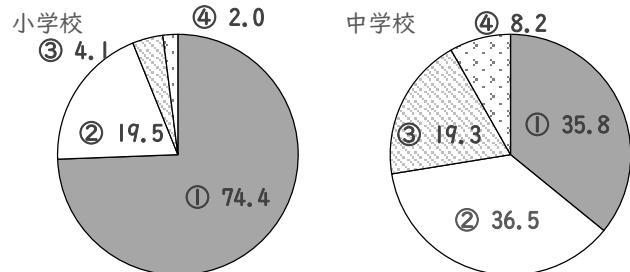
[%]



□様々な事物、経験、思い、考え等をどのように言葉で理解し、どのように言葉で表現するかという言葉を通じた理解や表現等、日常生活や社会生活に必要な国語の特質について理解できるようにしているか。

算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

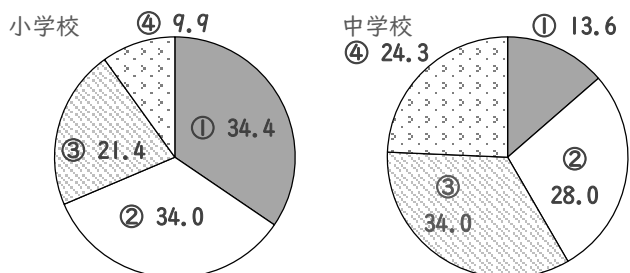
[%]



□諸事象に潜む数理を見いだし、それを的確に表現できるようにしているか。言語としての数学の特質が一層重視されていることに配慮しているか。

算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか

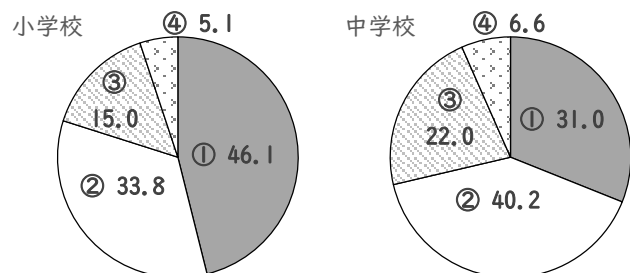
[%]



□日常生活のいろいろな場面で活用される「数」という内容がもつ、有用性、簡潔性、一般性に関わるよさに学習の中で気付いていけるように、指導を創意工夫しているか。

算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか

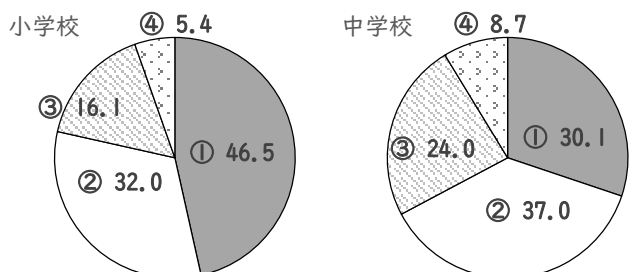
[%]



□問題に直面した際、事象を既習事項を基にしながら観察させたり試行錯誤させたりして結果や方法の見通しをもたせるようにしているか。

算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか

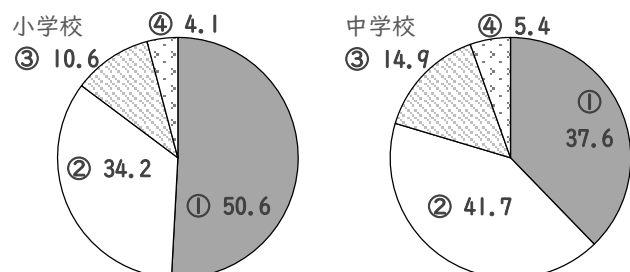
[%]



□「つまり」と具体的な事柄を一般化して表現させたり、「例えば」と抽象的な事柄を具体的に表現させたりして、算数的な表現を簡潔・明瞭・的確なものに高めていけるようにしているか。

算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか

[%]

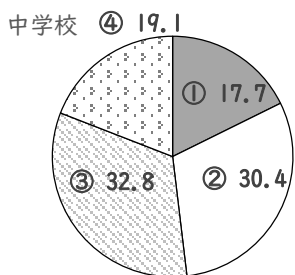
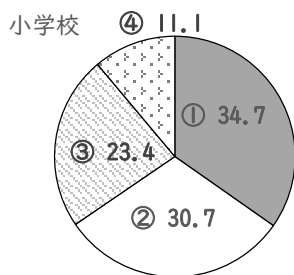


□形式的な学習指導に終わるのではなく、計算の仕方の基に原理・原則があることや、原理・原則をうまく使って形式的な処理の仕方が考え出されることを理解できるようにしているか。

- ① 当てはまる ② どちらかといえば、当てはまる ③ どちらかといえば、当てはまらない ④ 当てはまらない

理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか

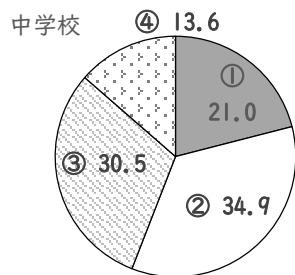
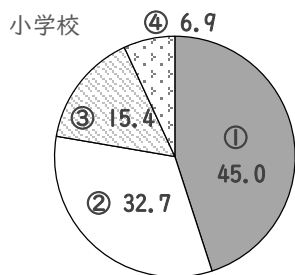
[%]



□学習内容と日常生活や社会との関連を重視した学習活動や、自然の事物・現象から見いだした問題を論理的に解決していく学習活動などを充実させているか。

理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

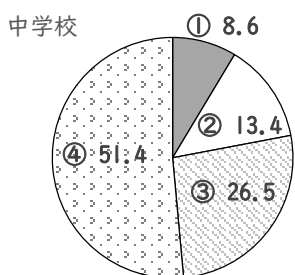
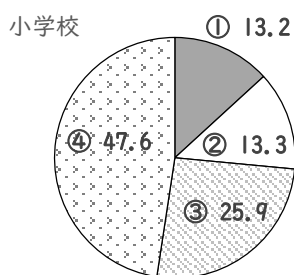
[%]



□日常生活や社会で利用されているものを取り上げて学習に対する生徒の興味・関心を高め、科学を学ぶ有用性に気付くことができるようにしているか。

将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか

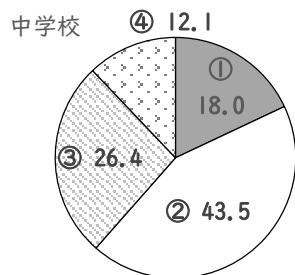
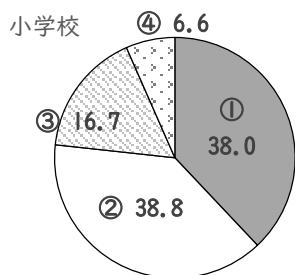
[%]



□科学技術が日常生活や社会を豊かにしていることや安全性の向上に役立っていること、理科で学習することが様々な職業などに関係していることにも触れるようにしているか。

理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか

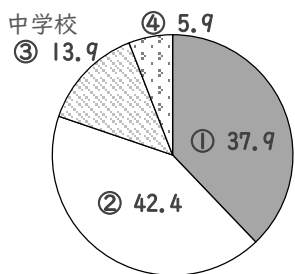
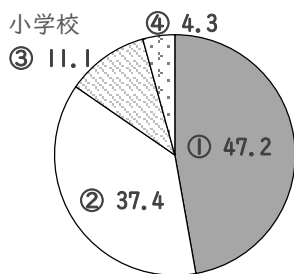
[%]



□科学的に探究する力や態度の育成を念頭に、見通しをもって観察、実験を行い、得られたデータを分析して解釈し、適切な判断を行うような活動を繰り返し経験させるようにしているか。

理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか（小）
理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか（中）

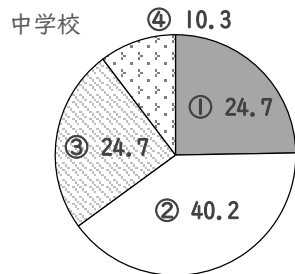
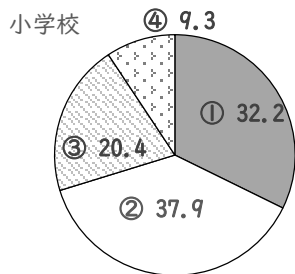
[%]



□問題を見だし、予想や仮説、観察、実験などの方法について考えたり説明したりする学習活動、観察、実験の結果を整理し考察する学習活動、科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする学習活動などを充実させているか。

理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか

[%]



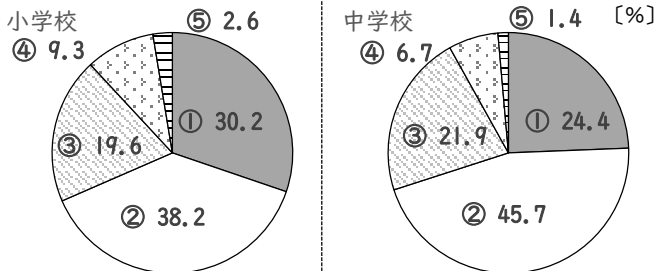
□小学校では、各学年で重点を置いて育成を目指す問題解決の力、中学校では、各学年で主に重視する探究の学習過程を踏まえた指導を確実にしているか。

(2) 児童・生徒質問紙の回答と平均正答率との相関及び授業改善のポイント

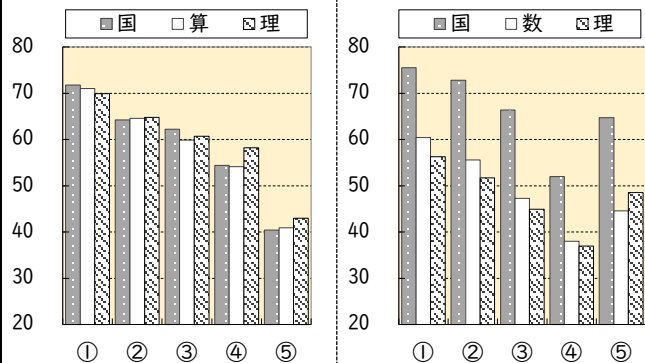
① 当てはまる ② どちらかといえば当てはまる ③ どちらかといえば当てはまらない ④ 当てはまらない

※円グラフ（児童・生徒質問紙の回答）、棒グラフ（平均正答率）

授業で、自分の考えを发表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して发表していましたか

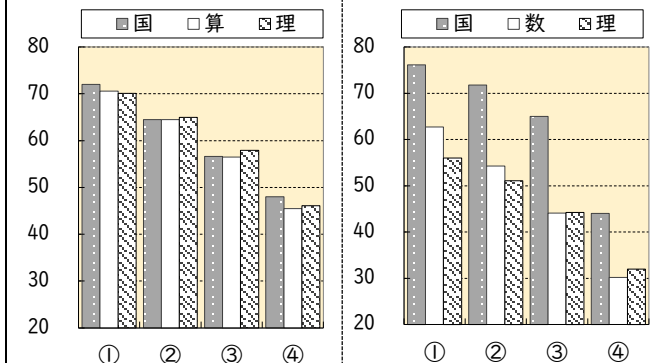
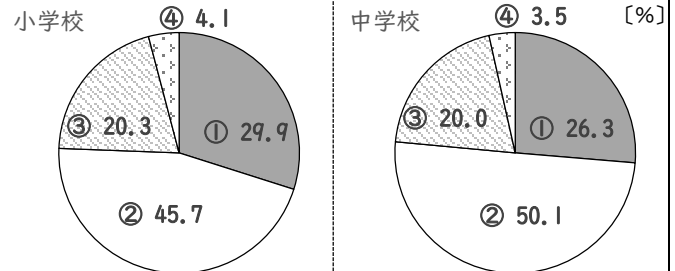


① 发表していた ② どちらかといえば、发表していた ③ どちらかといえば、发表していなかった
④ 发表していなかった ⑤ 考えを发表する機会がなかった



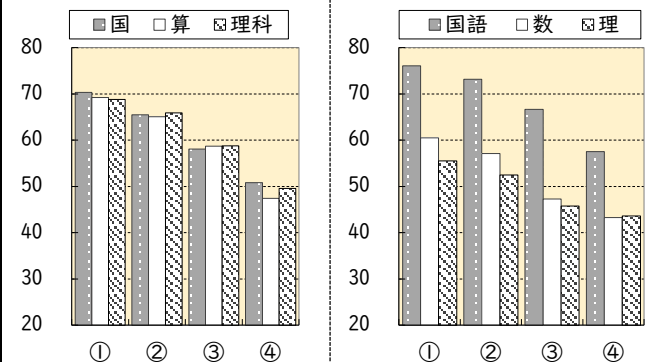
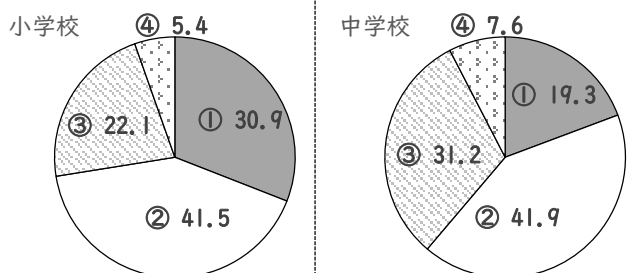
- ☐ 資料収集・調査活動・実験等の後に、その結果を分類・整理させているか。
- ☐ 分類・整理した結果を表やグラフ等にまとめさせているか。
- ☐ 表やグラフ等をもとに、考察させているか。
- ☐ 結果・考察及び、問題解決的な過程について説明する場面を設定しているか。

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



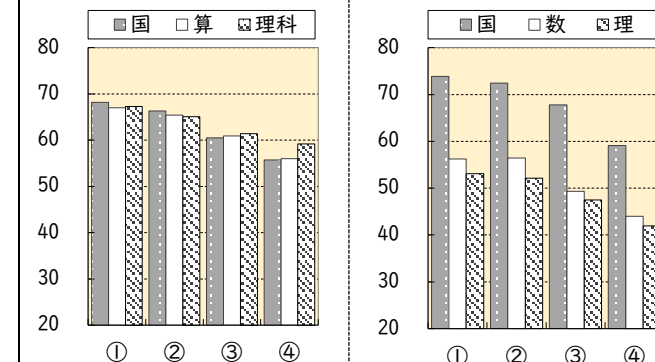
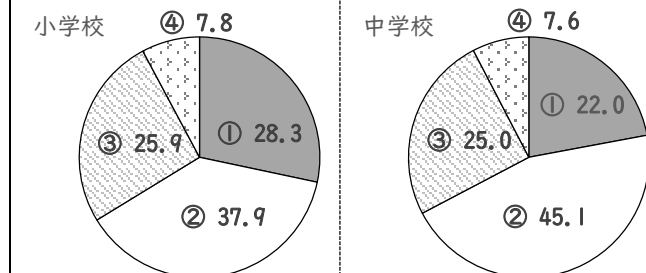
- ☐ 学習問題・課題に対し、既習事項や生活体験等を踏まえて、予想（+理由）を立てさせ、説明させているか。
- ☐ 予想を確かめるための方法・実験等の計画を立てさせているか。（教師の立案・計画から児童自らの立案・計画へ）
- ☐ 調べてまとめたことから新たな課題を見いだしているか。

授業では、各教科などで学んだことを生かしなが、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか [%]



- ☐ 子ども自身が身に付けた資質・能力を自覚しているか。
- ☐ 全教員が各教科で育成する資質・能力とともに、学習の基盤となる資質・能力を育成しているか。
- ☐ めあてに対する振り返りができるよう明記されているか。

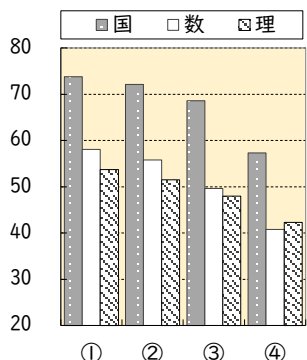
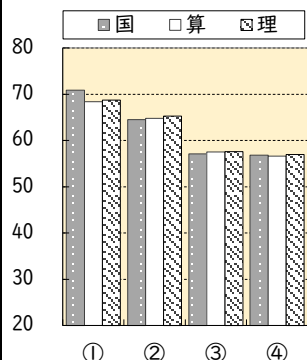
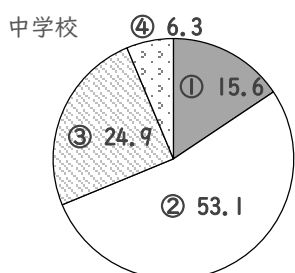
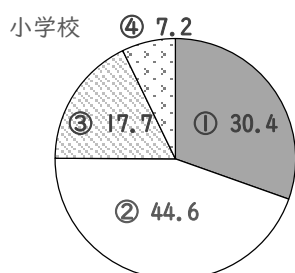
授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか [%]



- ☐ 自分の思いや考えを安心して表現できる学級経営ができているか。
- ☐ 教師が子どもの手本となるように、人権に配慮して適切な言葉を使っているか。

授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

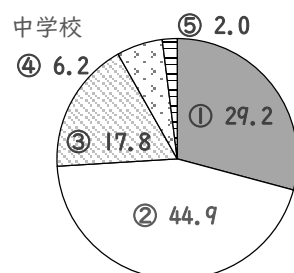
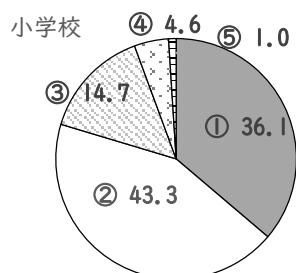
[%]



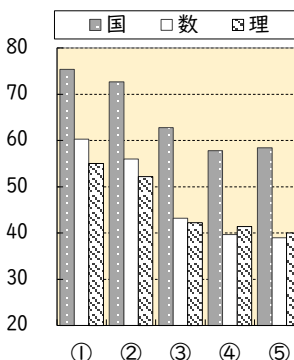
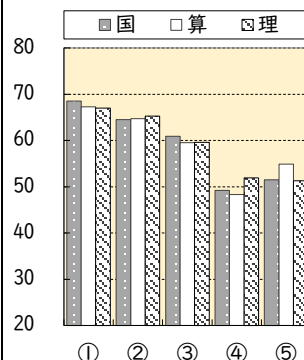
- ☐ 学習計画表で、学びを細かく事前に示しすぎているか
- ☐ 子どもの意見や生活から乖離した学習問題（課題）になっていないか
- ☐ 必要感に欠けるペア対話などを行わせていないか
- ☐ 毎時間形式だけ繰り返される振り返りになっていないか
- ☐ 子どもの学びを奪うほどに教えすぎているか

学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか※（ ）内は中学校

[%]



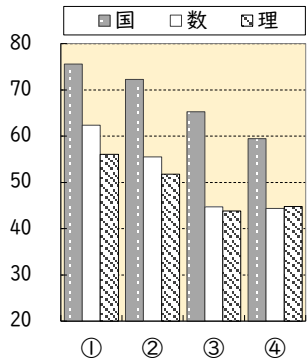
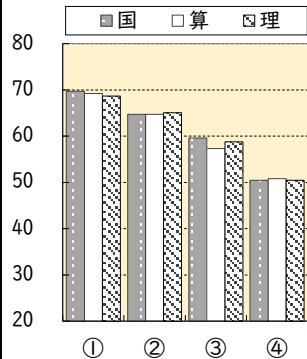
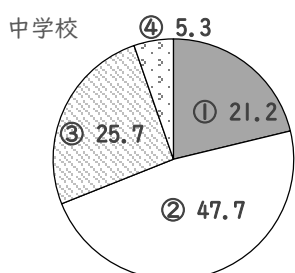
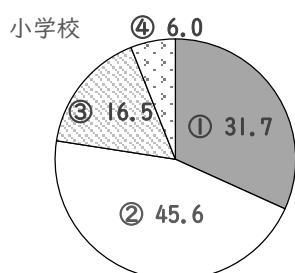
- ① 当てはまる ② どちらかといえば、当てはまる ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない ⑤ 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を行っていない



- ☐ 話し合いの目的が明確に示されているか
- ☐ 何ができれば、話し合いのゴールになるか示されているか
- ☐ 話し合う内容や考えをもたせているか
- ☐ 話し合う方法が示されているか
- ☐ 話し合いの結果を確かめさせているか

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

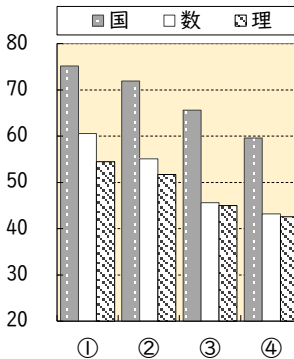
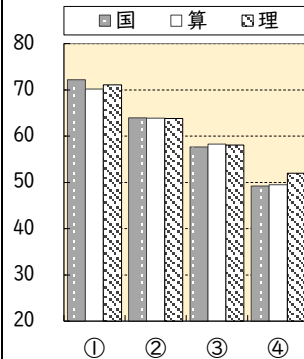
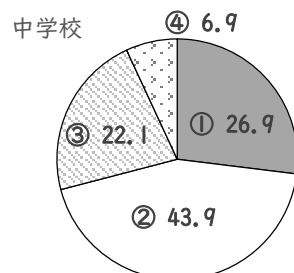
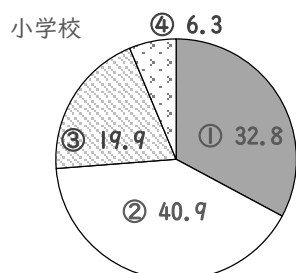
[%]



- ☐ 子どものつまずきを予想し、支援の方法を具体的に考えて授業に臨んでいる
- ☐ 賞賛やうなずきで子どもの発言を受容的に受け止め、学級全体で共有するようにしている
- ☐ 話すこと、書くことなどで、子どもの思いや考えを素直に表現できる場を設定している

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

[%]



- ☐ 教師が与えた課題について調べるだけになっていないか
- ☐ 各教科等で身に付けた力を生かせる学習の過程になっているか
- ☐ 教師は、子どもが身に付けた力を教科等横断的に把握できているか
- ☐ 子どもは自分ができるようになったことを自覚しているか

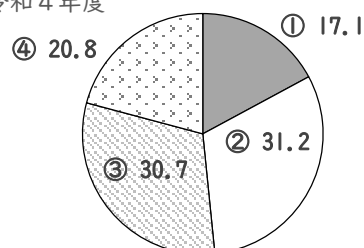
◇地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができますか。

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

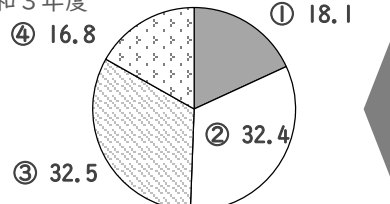
小学校

[%]

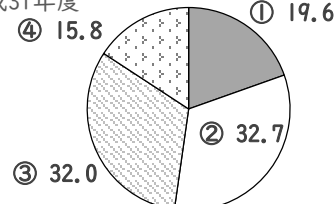
令和4年度



令和3年度

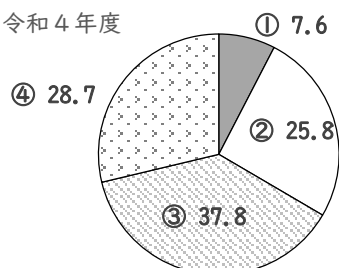


平成31年度

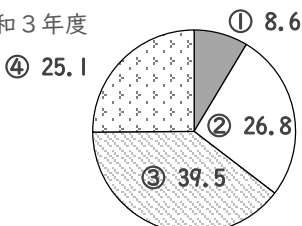


中学校

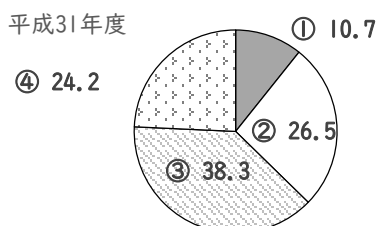
令和4年度



令和3年度



平成31年度

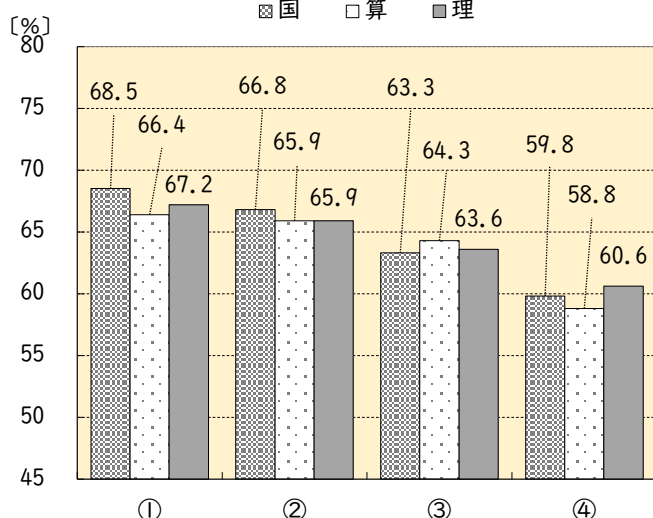


肯定的な回答は、小学校が2.2ポイント減少し、中学校が2ポイント減少し、小中学校ともに④の回答が増加している。地域に根ざした探究的な学びである立川市民科では、身近な地域における実社会・実生活の中にある複雑な問題状況の解決に取り組み、答えが一つに定まらない問題を扱う。そのため、より切実な課題に直面した児童・生徒が「これをすれば課題が解決できる」と言い切れない状態、明確な答えのない学びを経験していることによる影響があるものと考えられる。

教師は、子どもが大人でも難しい課題に挑戦していること、自分なりに考えた「すべきこと」の根拠を探し、整理・分類していることなどを積極的に価値付け、子ども自身が探究的に学ぶ意味を自覚できるよう支援し、励まし続けることが大切である。また、教師自身が探究的に学ぶことについて、子どものロールモデルとなることも重要である。

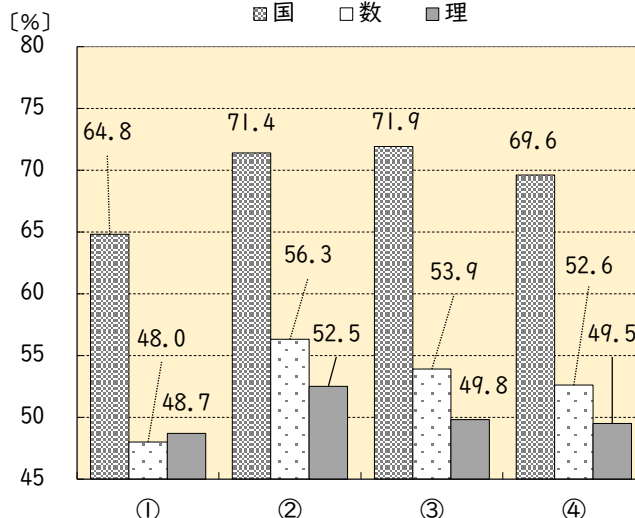
小学校 回答別正答率

■国 ■算 ■理



中学校 回答別正答率

■国 ■数 ■理



平均正答率との関連でみると、小学校で①、②と回答した児童の平均正答率が③、④と回答した児童の平均正答率より高い傾向がみられる。中学校では、①と回答した生徒の正答率が④と回答した生徒の正答率を下回っている。教科の専門性が高くなる中学校においては、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えるだけでは、教科の正答率が高くなるわけではないと考えられる。探究的な学習の過程に取り組むことについて (P.34) ①を回答した生徒は、平均正答率が高いことから、学習の過程における学びの充実が重要であると考えられる。

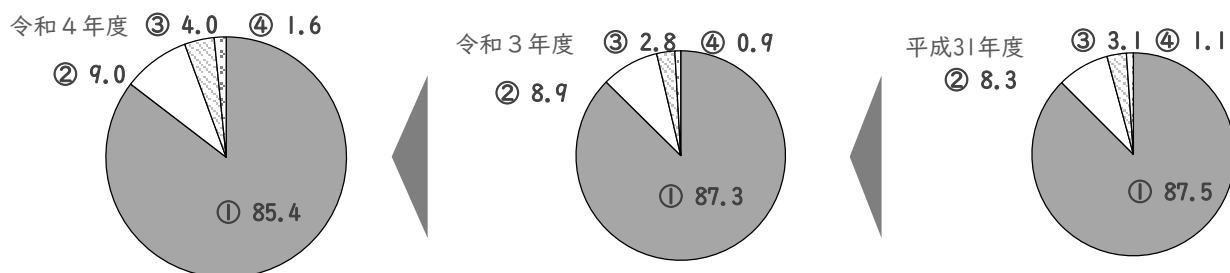
8 生活習慣に関する調査結果の概要

◇朝食を毎日食べていますか。

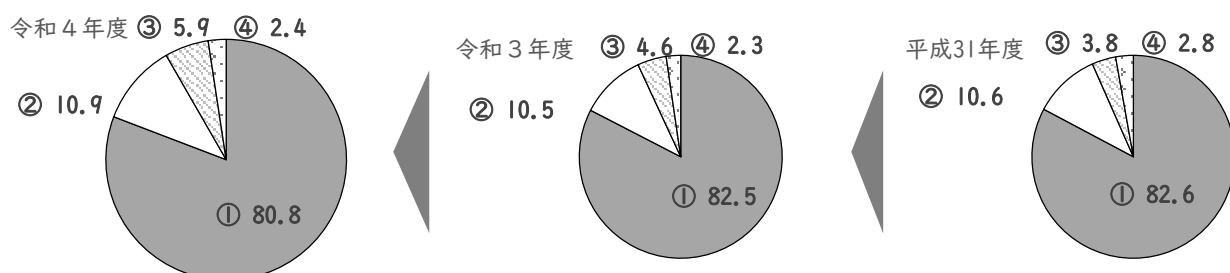
①食べている ②どちらかといえば食べている ③あまり食べていない ④食べない

小学校

[%]



中学校



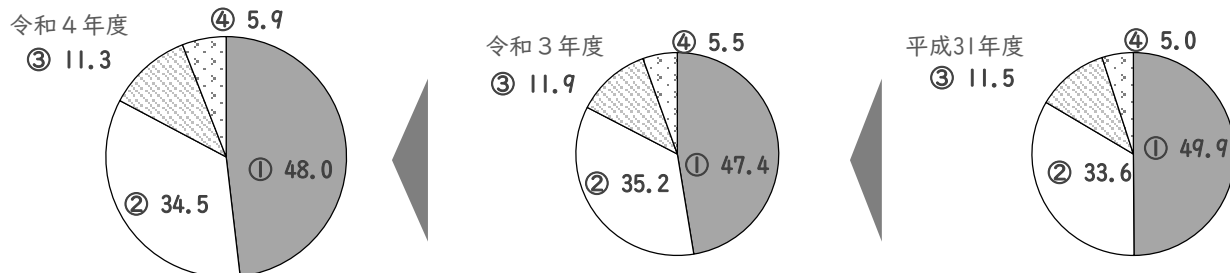
平成31年度から、全体的な傾向に大きな変化はない。令和4年度と3年度の比較では、①の児童が1.9ポイント、①の生徒が1.7ポイント減少している。また、④の児童は0.7ポイント増加、④の生徒はほぼ同数であった。今後も、関連諸機関との連携を図るとともに、家庭の理解と協力を得ながら、継続して児童・生徒の基本的な生活習慣を確立できるよう指導の徹底を図っていくことが重要である。

◇学校に行くのは楽しいと思いますか。

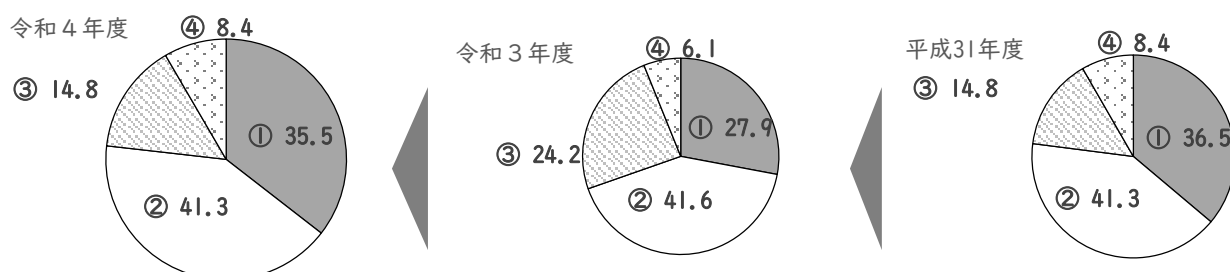
①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

小学校

[%]



中学校



小学校では、平成31年度から令和4年度まで、全体的な傾向に大きな変化はない。中学校では、令和4年度の①の生徒が令和3年度から7.6ポイント増加した。④について、小学校は0.4ポイント、中学校は2.3ポイント増加したものの、小学校の肯定的な回答に大きな変化はなく、中学校の肯定的な回答は7.3ポイント増加した。コロナ禍で制約のある学校生活において、感染症対策を講じながら、教員や子どもたちもが、様々な工夫を行い、学びを続けてきたことが影響していると考えられる。

9 学校質問紙調査の結果

(1) カリキュラム・マネジメント

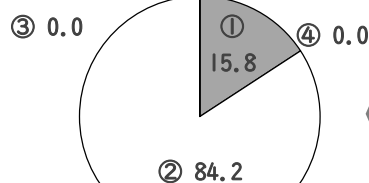
- ① よくしている ② どちらかといえば、している ③ あまりしていない ④ 全くしていない

◇指導計画の作成にあたっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育内容を組織的に配列している。

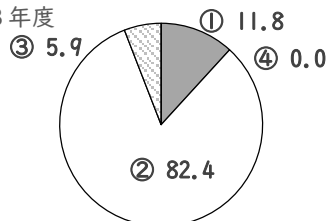
小学校

[%]

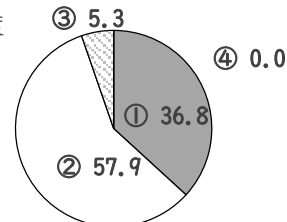
令和4年度



令和3年度



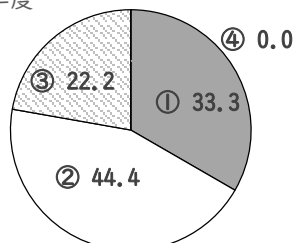
平成31年度



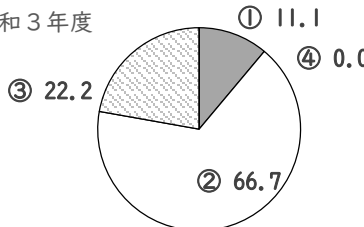
中学校

[%]

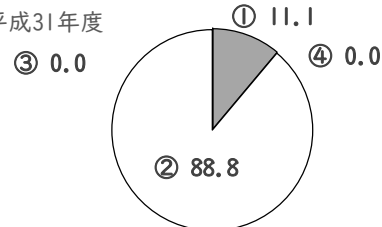
令和4年度



令和3年度



平成31年度



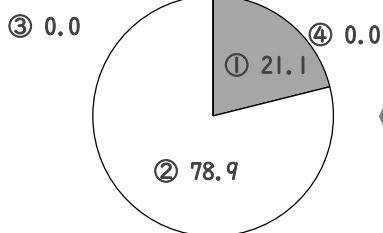
小学校では、全校が肯定的な回答であった。①の回答が4ポイント増加しており、教育内容を組織的に配列した指導計画の作成がすすんでいるものと捉えられる。中学校で令和3年度に比べて①の回答が22.2ポイント増加し、改善が見られた。コロナ禍により、職場体験等の地域を舞台にした学びについての影響は残っているものの、組織的な指導計画の改善がすすむ学校もあると捉えられる。ただし、令和3年度に増加した③の回答が横ばいであるため、引き続き改善が必要である。

◇児童・生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。

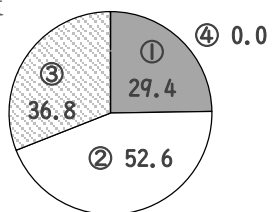
小学校

[%]

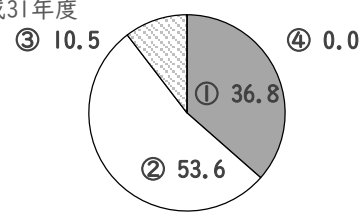
令和4年度



令和3年度



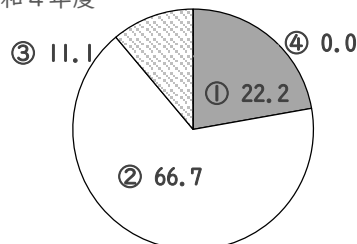
平成31年度



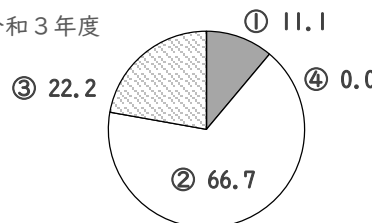
中学校

[%]

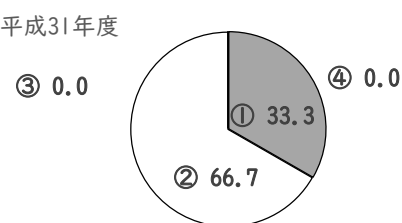
令和4年度



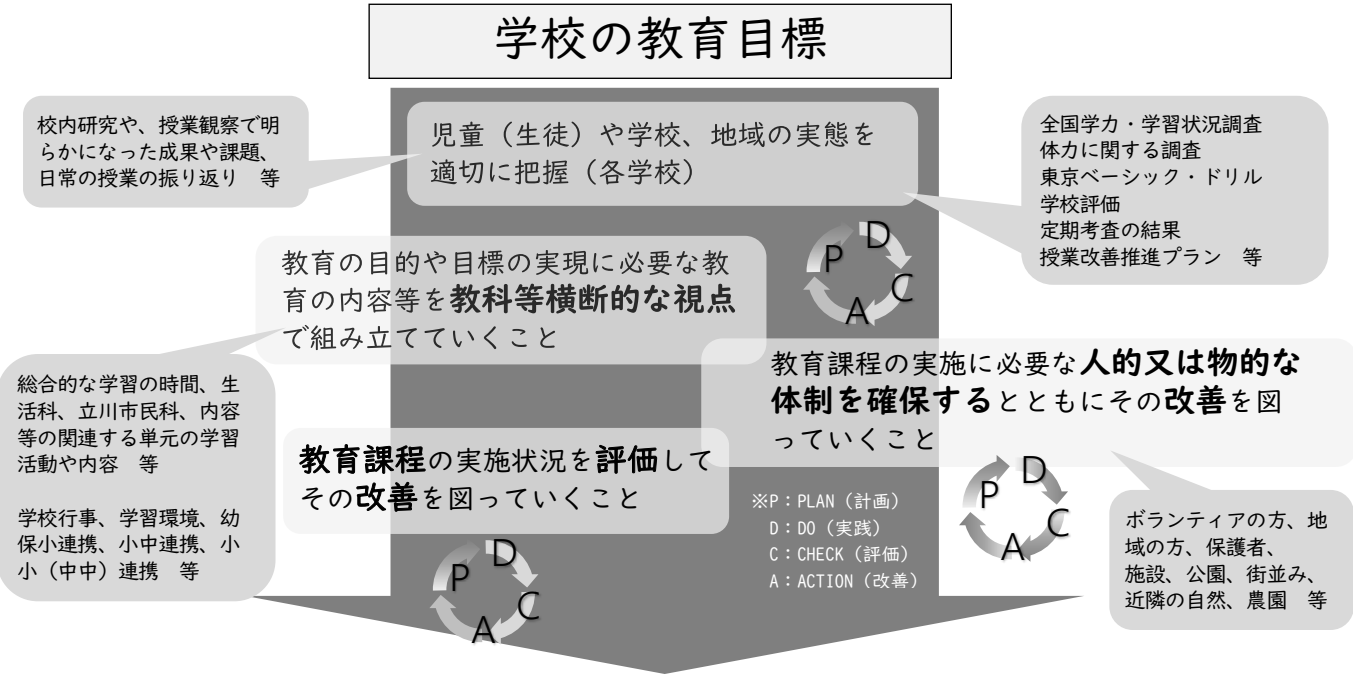
令和3年度



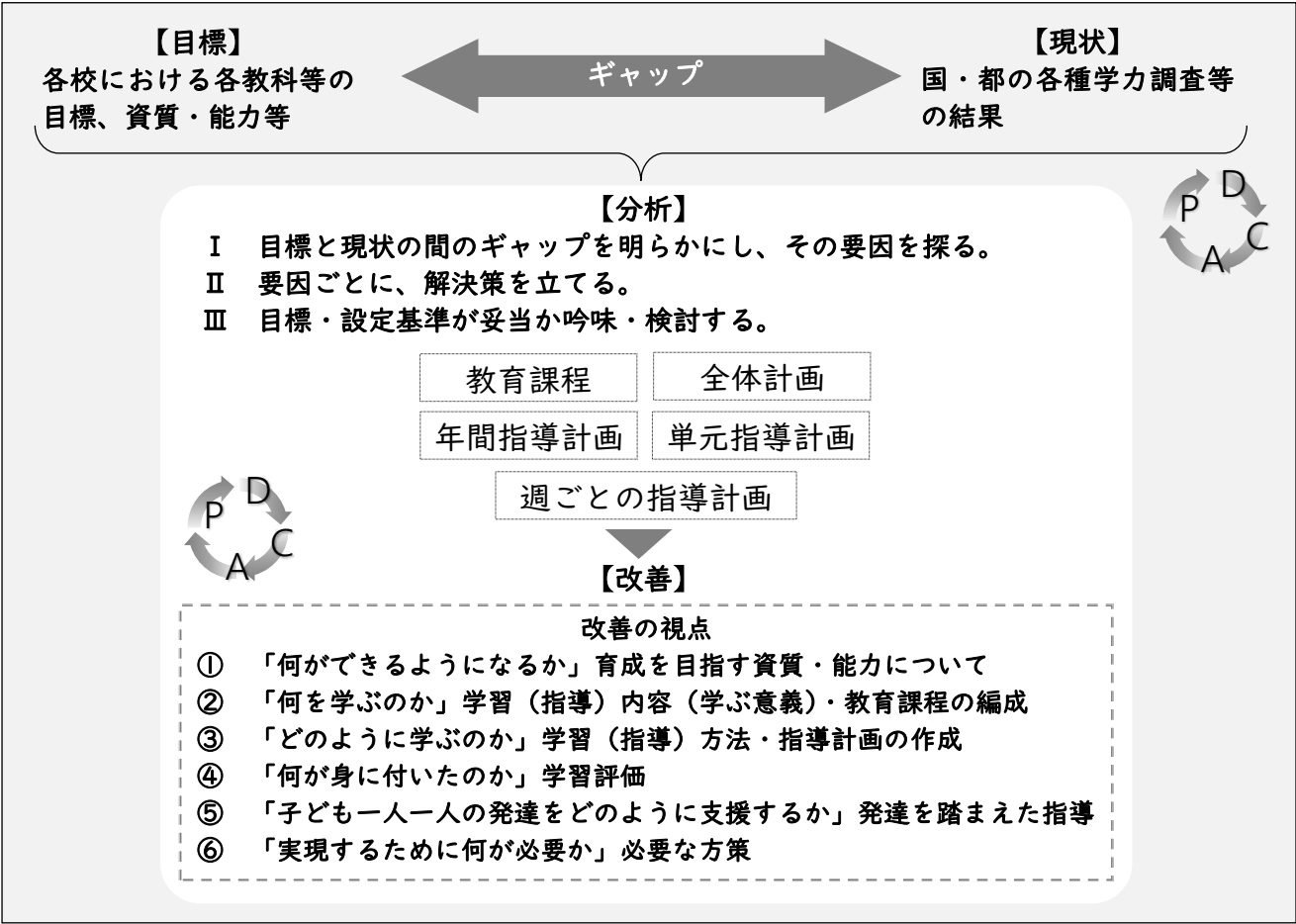
平成31年度



教育課程のPDCAについて、小学校は全校が肯定的に回答している。中学校は令和3年度に比べると改善したものの、引き続き③回答の改善が求められる。小・中学校とも、ネットワーク型学校経営システムによるカリキュラム・マネジメントに取り組んでいる。今後は、管理職のリーダーシップの下、各分掌の主任を中心とした取組とともに、学校の教育目標を見据えた学級経営等もカリキュラム・マネジメントであることを全教員が自覚し、職層や経験年数に応じたカリキュラム・マネジメントを行い、各学校の教育活動の質の向上を推進することが求められる。



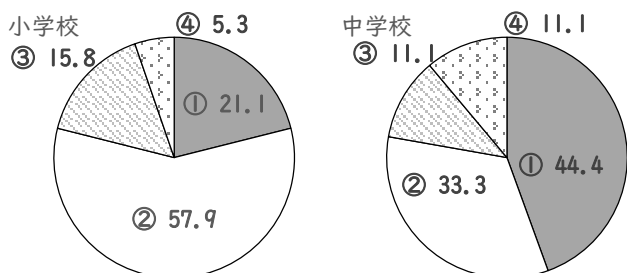
教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと



(2) 義務教育9年間の学びや発達の連続性を踏まえた取組

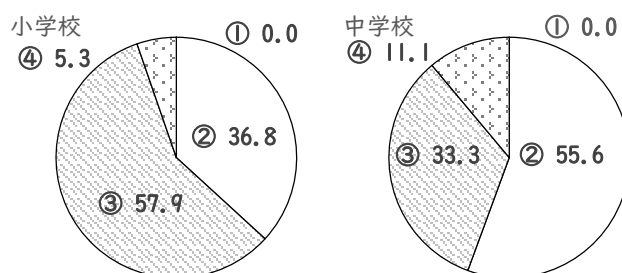
- ① よくしている ② どちらかといえば、している ③ あまりしていない ④ 全くしていない

前年度までに、近隣等の小(中)学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか



□④の回答は改善が必要な課題である。義務教育9年間の学びの連続性や発達段階等を踏まえ、具体的な取組の質を高める意識の向上と実践が必要である。

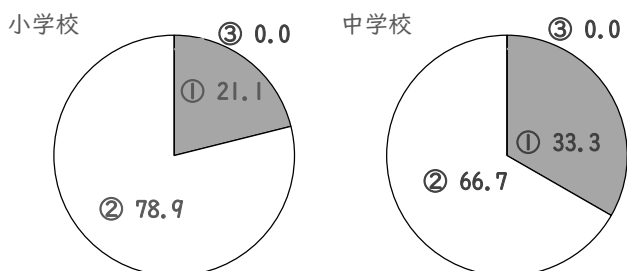
令和3年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有しましたか



□④の回答は改善が必要な課題である。学校段階間の接続を円滑に行うに当たって、分析結果を活用して把握した児童・生徒の実態から授業改善を行うことが求められる。

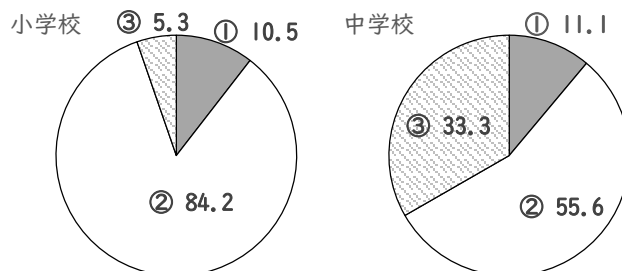
- ① よく行った ② 行った ③ ほとんど行わなかった

令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか



□全ての学校が自校の教育活動の改善に、本調査を活用できている。調査の対象学年以外の教員や対象教科以外の教員も分析等に関わり、調査の結果や数値に基づいて分析する力については、組織全体で一層高めていくことが求められる。

令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか(学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む)



□「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すに当たっては、本調査の結果を踏まえた授業改善のプラン等を活用するなどして、子どもたちに求められる資質・能力とは何かを保護者や地域の人たちと共有し、連携することが求められる。



(3) 学校質問紙調査と児童・生徒意識調査の比較

◇児童・生徒の自己肯定感を育む指導について

自分には、よいところがあると思いますか

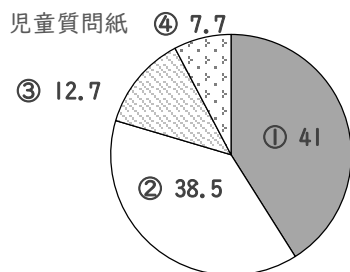
- ①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる
③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

学校生活の中で、児童（生徒）一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか。

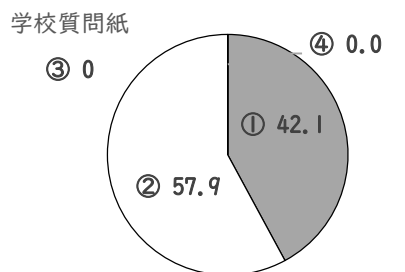
- ①よくしている ②どちらかといえば、している
③あまりしていない ④全くしていない

<小学校>

児童質問紙



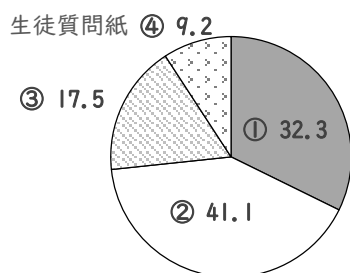
学校質問紙



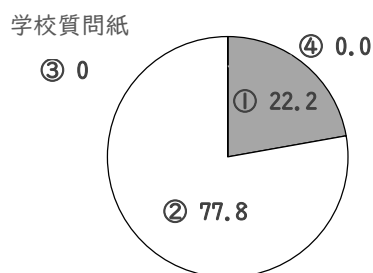
全校の回答が肯定的であっても、20.4%の児童は、肯定的な回答が選択できていない実情がある。「よい点」として児童に届いていない可能性も含め、発達段階に合わせてより丁寧に伝えることが求められる。

<中学校>

生徒質問紙



学校質問紙



全校の回答が肯定的であっても、肯定的ではない回答の生徒が26.7%いることから、生徒がよさを自覚できるまで具体化するなどして、丁寧に伝えることが求められる。

◇学習したことの意義や価値を実感できる指導について

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

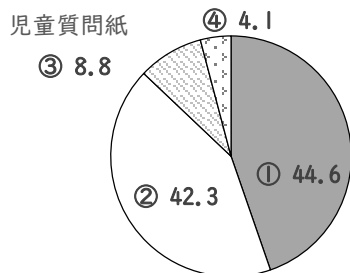
- ①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる
③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

児童（生徒）のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしましたか

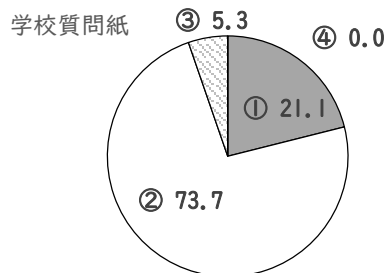
- ①よくしている ②どちらかといえば、している
③あまりしていない ④全くしていない

<小学校>

児童質問紙



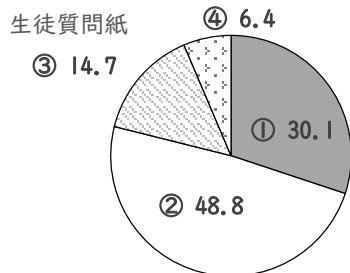
学校質問紙



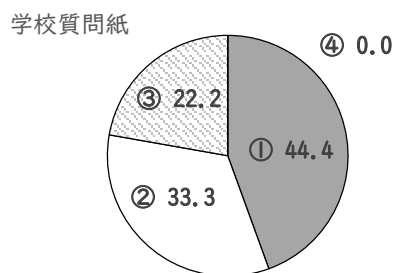
一人でも多くの児童が周りの大人から認められていると感じられる状態になることを目指し、学校の②の割合の多さを課題と捉え、改善していこうとすることが重要である。

<中学校>

生徒質問紙



学校質問紙



④と回答した6.4%の生徒を含めた約20%の生徒が肯定的な回答ではないことを踏まえ、教師の言動、態度、視線等を振り返り、生徒への寄り添い方から見つめなおすことが大切である。

◇主体的な学習について

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

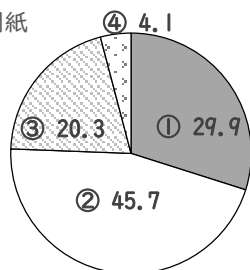
①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる
③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができますか

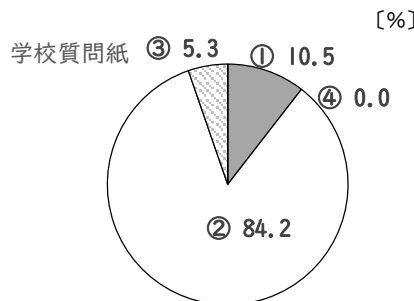
①よくしている ②どちらかといえば、している
③あまりしていない ④全くしていない

<小学校>

児童質問紙



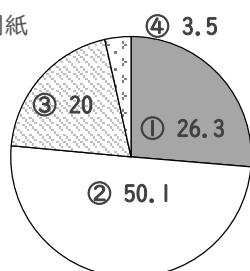
学校質問紙



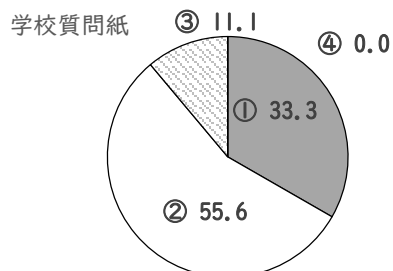
教員と児童の肯定的な回答には19.1ポイントのギャップがある。児童が課題の解決に向けて取り組む学習の過程を認識できるようにするとともに、学校の回答③の改善が求められる。

<中学校>

生徒質問紙



学校質問紙



教員と児童の肯定的な回答には12.5ポイントのギャップがある。中学校の回答③は、小学校の倍近い割合となっているため、主体的な学習となる単元（題材）設計が求められる。

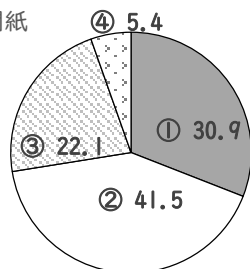
◇各教科等で身に付けたことを、生かす学習について

各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

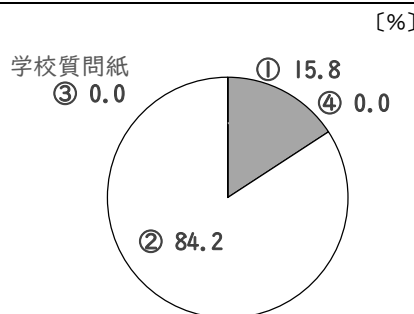
各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか

<小学校>

児童質問紙



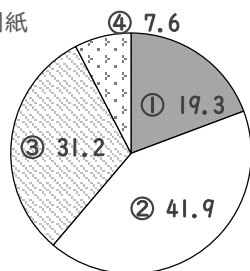
学校質問紙



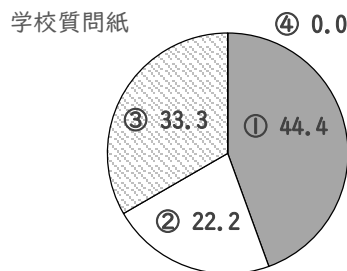
学校と児童の肯定的な回答には27.6ポイントのギャップがある。学校が認識しているほど、児童はこれまでの学びを生かしている実感がなく、振り返りや価値付けの改善が求められる。

<中学校>

生徒質問紙



学校質問紙



学校の肯定的ではない回答の割合が高くても、61.2%の生徒が、これまでの学びを生かしていると認識している。学校質問紙③と回答した33.3%の学校の指導の改善が求められる。

10 探究的な学習における教科等横断的な取組の充実に向けて

本市において各教科等の学びをつなぐ柱となる探究的な学びを担うのは、立川市民科と総合的な学習の時間である。指導に当たっては、これらの時間で行う探究的な学習が、学習全般や生活と深く関わっていることや、学びという営みの本質であることへの気付きを大事にすることが欠かせない。義務教育9年間の学びを将来につなぐにあたって、探究的な学習における教科等横断的な取組の充実が必要不可欠である。

- ・ 児童・生徒が各教科等の学びで身に付けた知識及び技能や思考力、判断力、表現力等が総合的に活用、発揮されることは、探究的な学習のよさである。学んだことの有用性を実感させるためにも、他教科等と、これらの時間との資質・能力の関連を、児童・生徒自身が見通せるようにする必要がある。そのためには、学習を進める中で、それらの関連を明示していくことや、学習においてどのような関連が実現されたのかを振り返ることなどが考えられる。
- ・ 本報告書 33、34 ページにもまとめた児童・生徒質問紙の結果等について、下表の通り、各教科のA層とC層の児童・生徒に分けて回答状況を比べると、A層の児童・生徒は肯定的な回答の割合が高い。肯定的な回答が 80%を超える結果となった質問に示された学習活動については、探究課題の解決において、各教科等の資質・能力が繰り返し何度となく活用・発揮されたことが想像できる。

※平成28年の中央教育審議会答申では、探究的な学習の役割はOECDが実施する生徒の学習到達度調査(PISA)における好成績につながったことのみならず、学習の姿勢の改善に大きく貢献するものとして OECD をはじめ国際的に高く評価されている。

(①当てはまる、②どちらかといえば、当てはまる、③どちらかといえば、当てはまらない、④当てはまらない)

[%]

これまでに受けた授業について	小学校					教科名	中学校				
	教科名	A層の児童の 回答内訳		C層の児童の 回答内訳			教科名	A層の生徒の 回答内訳		C層の生徒の 回答内訳	
		① ②	③ ④	① ②	③ ④			① ②	③ ④	① ②	③ ④
授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	国	78.7	20.5	53.6	37.9	国	82.2	16.2	67.1	32.4	
	算	77.4	22.4	70.5	26.9	数	82.9	16.4	69.7	29.1	
	理	78.7	20.7	66.8	30.8	理	85.5	13.8	71.1	27.7	
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	国	84.8	15.2	75.3	24.8	国	87.1	12.9	70.9	29	
	算	82.9	17.1	77.2	22.8	数	87.2	12.7	74.6	25.4	
	理	83.6	16.3	75.0	24.9	理	87.3	12.7	74.8	25.2	
授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	国	84.0	16.0	68.6	31.1	国	73.9	26.1	53.3	46.7	
	算	79.5	20.5	75.3	24.7	数	74.2	25.8	61.0	38.9	
	理	81.3	18.7	72.0	28.0	理	73.1	26.9	58.8	41.3	
授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか	国	77.0	23.0	60.6	39.1	国	73.8	26.1	62.9	36.6	
	算	73.2	26.8	65.9	34.2	数	76.7	23.3	64.0	35.7	
	理	72.5	27.5	64.6	35.4	理	78.5	21.6	64.6	35.4	
授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	国	82.2	17.8	74.7	25.3	国	76.8	23.2	64.3	35.2	
	算	79.3	20.7	75.7	24.4	数	74.8	25.3	66.4	33.7	
	理	81	18.9	76.9	23.1	理	74.2	25.8	67.8	32.1	
学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか ※()内は中学校	国	86.6	12.8	77.2	21.9	国	86	13.2	64.3	32.8	
	算	84.9	14.4	81.0	18.3	数	87.5	11.9	70.6	26.7	
	理	84.2	15.1	78.8	20.3	理	87.6	11.7	69.7	28.8	
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	国	85.6	14.4	76.6	23.4	国	77.1	22.7	66.7	33.3	
	算	84.9	15.1	79.1	20.8	数	81.1	18.6	64.4	35.6	
	理	83.9	16.1	77.6	22.1	理	79.5	20.5	71.1	28.8	
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	国	82.2	17.9	73.3	26.6	国	80.8	19.2	64.2	35.2	
	算	80.9	19.1	72.8	27.2	数	82.0	18.0	67.0	33.0	
	理	82.6	17.4	73.5	26.5	理	84.1	15.9	66.4	33.5	

■小学校

	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
学習方法	■問題状況の中から課題を発見し設定する ■解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる	■手段を選択し、情報を収集する ■必要な情報を収集し分析する	■問題状況における事実や関係を把握し理解する ■多様な情報の中にある特徴を見付ける ■課題解決を目指して、事象を比較したり、関連付けたりして考える	■相手や目的、意図に応じて分かりやすくまとめ、表現する ■学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする
探究活動と自分自身	○課題の解決に向けて探究活動に主体的に取り組もうとする（主体性） ○自分らしさを発揮して探究活動に向き合い、課題解決に向けて取り組もうとする（自己理解） ○探究的な課題解決の経験を自信につなげ、次の課題へ進んで取り組もうとする（内面化）			
探究活動と他者や社会	○課題の解決に向けて探究活動に協同的に取り組もうとする（協同性（協働性）） ○異なる意見や他者の考えを受け入れながら探究活動に向き合い、目標の達成に向けて取り組もうとする（他者理解） ○探究的な課題解決が実社会・実生活への興味・関心へとつながり、進んで地域の活動に参加しようとする（社会参画、社会貢献）			
知識	実社会の課題に関する事実的知識^(※)の獲得			
技能	概念的知識^(※)の形成			
	※総合的な学習の時間で扱う内容は各学校において定めることとなっているため、知識の具体は各学校において異なる。			
	課題設定のスキル	情報収集のスキル	思考のスキル	表現のスキル
	（比較・分類・関連付け）			
	■知識は、学校種が上がるほど高度化・構造化する ■技能は、思考スキルを中核とし、学校種が上がるほど自覚化・脱文脈化する			

1

■中学校

	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
学習方法	■複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する ■仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案する	■目的に応じて手段を選択し、情報を収集する ■必要な情報を収集し、多角的に分析する	■複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えを持つ ■視点を定めて多様な情報を分析する ■課題解決を目指して、事象を比較したり、因果関係を推測したりして考える	■相手や目的、意図に応じて論理的に表現する ■学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かす
探究活動と自分自身	○課題に誠実に向き合い、課題の解決に向けて探究活動に主体的に取り組もうとする（主体性） ○自分のよさを生かしながら探究活動に向き合い、責任をもって計画的に取り組もうとする（自己理解） ○探究的な課題解決の経験を自己の成長と結び付けて考えることができ、次の課題へ積極的に取り組もうとする（内面化）			
探究活動と他者や社会	○互いの特徴を生かすなど、課題の解決に向けて探究活動に協同的に取り組もうとする（協同性（協働性）） ○異なる意見や他者の考えを受け入れながら探究活動に向き合い、互いを理解しようとする（他者理解） ○探究的な課題解決が社会の形成者としての自覚へとつながり、積極的に社会活動へ参加しようとする（社会参画、社会貢献）			
知識	実社会の課題に関する事実的知識^(※)の獲得			
技能	概念的知識^(※)の形成			
	※総合的な学習の時間で扱う内容は各学校において定めることとなっているため、知識の具体は各学校において異なる。			
	課題設定のスキル	情報収集のスキル	思考のスキル	表現のスキル
	（比較・分類・関連付け・多面的）			
	■知識は、学校種が上がるほど高度化・構造化する ■技能は、思考スキルを中核とし、学校種が上がるほど自覚化・脱文脈化する			

2

※立川市民科の学習過程については、総合的な学習の時間に準ずるものとし、小学校低学年については生活科に準ずるものとする。

参考：幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）平成28年12月21日 中央教育審議会 別添より

【本報告書作成における主な参考資料】

- 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 国語編、算数編、理科編（平成 29 年 7 月 文部科学省）
中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 国語編、数学編、理科編（平成 29 年 7 月 文部科学省）
- 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）
平成 28 年 12 月 21 日 中央教育審議会（本文、別紙、別添、補足）
- 令和 4 年度 全国学力・学習状況調査 解説資料（小学校国語・算数・理科、中学校国語・数学・理科）
児童・生徒一人一人の学力・学習状況に応じた学習指導の改善・充実に向けて
（令和 4 年 4 月 国立教育政策研究所教育課程研究センター）
- 令和 4 年度 全国学力・学習状況調査 報告書（小学校国語・算数・理科、中学校国語・数学・理科）
児童・生徒一人一人の学力・学習状況に応じた学習指導の改善・充実に向けて
（令和 4 年 8 月 文部科学省 国立教育政策研究所）
- 全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会資料
小学校国語（国立教育政策研究所 教育課程研究センター 学力調査官・教育課程調査官 渡辺 誠）
小学校算数（同研究所 同センター 学力調査官・教育課程調査官 稲垣 悦子）
小学校理科（同研究所 同センター 学力調査官・教育課程調査官 川上 真哉）
中学校国語（同研究所 同センター 学力調査官・教育課程調査官 加藤 咲子）
中学校数学（同研究所 同センター 学力調査官・教育課程調査官 伊吹 竜二）
中学校理科（同研究所 同センター 学力調査官・教育課程調査官 神 孝幸/佐々木 修一）
（国立教育政策研究所ＨＰ <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html> ）
- 初等教育資料（文部科学省）、中等教育資料（文部科学省）2022 年度各号の特集



